

2025年度

国際学部

専門ゼミナール選択オリエンテーション資料

目 次

専門ゼミナール選択オリエンテーション要領 ……	3
専門ゼミナール選択指導について ……	4
2025年度専門ゼミナールI一覧表 ……	7
2025年度専門ゼミナールI概要 ……	9

国際学部

専門ゼミナール選択要領

本年度の専門ゼミナール選択オリエンテーションは、次の要領で開催します。

○日時 : 2024年9月13日(金) 13:00~16:30

○教室 : AITADEホール

○内容 : ① 各専門ゼミナールの紹介
② 専門ゼミナール選択の方針・選択方法・スケジュールの説明

*スケジュール

説明会	ゼミ選択期間	第1志望調査票 締め切り	第2志望調査票 締め切り	第3志望調査票 締め切り
9/13(金)	9/13(金)~ 10/14(月)正午	10/14(月) 12:00(正午)	11/11(月) 12:00(正午)	12/2(月) 12:00(正午)

詳細は次ページをご覧ください。

国際学部 2 年生の皆さんへ 【重要】
—2025 年度専門ゼミナール選択指導について—

2024/9/15

国際学部教務委員会

1. 専門ゼミ選択についての方針は以下のとおりです。

- (1) 専門ゼミナールは国際学部学生の必修科目で、3・4 年次の 2 年間（専門ゼミナール I～IV）にわたり同じ教員のもとで指導を受けることとなります。これは、専門ゼミナールが「国際学部における知の再編と創造の集大成の場」として大変重要だからです。したがって、ゼミ選択にあたってはこれまでの学習への総括とともに、これからの学習研究計画、将来の自分のあり方などを考え、慎重に選択をしてください。
- (2) 専門ゼミにおける学習上の効果を保障するために、**最少定員（10 名）、最大定員（最も多い場合で 19 名）**とします。なお最大定員については、皆さんの志望を尊重する一方で、教育水準の維持を考慮して設定される「ここまでは受け入れることが出来る人数」であり、必ずしも「受け入れなければならない」という意味ではありません。したがって、各ゼミにはそれぞれ異なる最大定員に関する枠が設けられ、各教員の判断で受け入れ人数を調整することとなります。
- (3) **第 1 志望者数が、各教員が設定した定員枠を上回った場合には、各教員が選抜をする場合があります。**第 1 志望への所属がかなわなかった学生の皆さんは、その後あらためて志望ゼミナールを選んでいただくこととなります。その際の受け入れ可能ゼミの条件等については、当該者に別途連絡します。
- (4) **1 名以上の志望者がいる場合にはゼミを開講します。**ただし、志望者が 1 名の場合には当該学生の意見を聞き、志望ゼミ所属についてあらためて確認をしたいと考えています。志望者がいなかった専門ゼミナールについては非開講となります。
- (5) **専門ゼミ選択は皆さんの所属学科にかかわらず、原則として自由に選択することができます。**ただし、指導に不可欠な特定科目履修がなされていないなど、ゼミの専門性確保が困難となったり、学生を指導していく上で目標が達成されない恐れがあったりする場合において、担当教員は自身が所属する学科の学生（あるいは別の学科の学生）を優先的に選抜する場合があります。この場合は予め、その旨を「各専門ゼミナール概要資料」に記載していますので、資料をよく読んで精査してください。

2. 専門ゼミ選択のスケジュールは以下のとおりです。

- (1) 専門ゼミナール選択に関する情報を 9 月 13 日（金）より教育支援課ホームページで公開します。公開内容には以下が含まれています。
 - ① 2025 年度国際学部専門ゼミナール選択オリエンテーション資料（本資料）
 - ② 各専門ゼミナールの概要（シラバス等）
 - ③ 各ゼミ提供の付属資料（Google Driveへのリンク）
- (2) 皆さんは約 1 か月のゼミ選択期間に「各専門ゼミナールの概要」をよく読み、各ゼミが提供する付属資料（Google Drive※1）などの閲覧、任意で開かれる説明会への参加、ゼミ見学や研究室訪問などを積極的に行って情報を集め、志望ゼミを選択するように努めてください。複数のゼミを見て、教員と必ず面談を行ってください。その際、教員から志望調査票にサインをもらってください。志望ゼミの教員のサインがない志望調査票は無効となりますので注意してください。
- (3) 皆さんは、志望調査票に志望するゼミ教員からサインをもらったうえで、10月14日（月）正午までに調査票を教育支援課へ提出してください。

(4) 第1回選考でゼミが決定しなかった学生は、第2回以降の選考で決定します。

(5) その他、疑問等がある場合は教育支援課、あるいは教務委員長の海津先生までご相談ください。

※1は教育支援課からのお知らせ本文および教育支援課HPに記載しています。

<参考> 専門ゼミ選択のスケジュール

9月13日(金)	専門ゼミナールオリエンテーション・関連資料公開(教育支援課HP)
	↓
~10月14日(月)	<u>第1志望ゼミ選択期間(研究室訪問・ゼミ見学・教員との面談)</u>
	↓
10月14日(月)正午	第1志望調査票提出期限(期限厳守)
	↓
	ゼミによって第1志望者を選抜(必要が生じた担当教員)
	↓
10月31日(木)	第1回選考結果発表(教育支援課HP)
	↓
~11月11日(月)	<u>第2志望ゼミ選択期間(研究室訪問・ゼミ見学・教員との面談)</u>
	↓
11月11日(月)正午	第2志望調査票提出期限(期限厳守)
	↓
	ゼミによって第2志望者を選抜(必要が生じた担当教員)
	↓
11月21日(木)	第2回選考結果発表(教育支援課HP)
	↓
~12月2日(月)	<u>第3志望ゼミ選択期間(研究室訪問・ゼミ見学・教員との面談)</u>
	↓
12月2日(月)正午	第3志望調査票提出期限(期限厳守)
	↓
	ゼミによって第3志望者を選抜(必要が生じた担当教員)
	↓
12月下旬	所属ゼミ発表(最終結果)

3. 専門ゼミ履修上の注意事項については以下のとおりです。

(1) 「専門ゼミナールI」を履修するためには、卒業要件単位(「各教科の指導法」、「教育の基礎的理解に関する科目等」は含まない)を48単位以上修得していなければなりません。

(2) 専門ゼミナールには順序性がありますので、「専門ゼミナールI~IV」を履修できなかった場合や単位を修得できなかった場合は卒業が遅れることになります。

(3) 専門ゼミナールは、原則、5セメ(春)→6セメ(秋)→7セメ(春)→8セメ(秋)の順に履修します。ただし、真にやむを得ない理由(留学等での半期休学、病気及び怪我)があること、指導やゼミ活動に支障がないことが確認できた場合には、半期遅れの履修が認められる場合があります。なお、この半期遅れの履修は、以下に該当する場合に限り検討可能です。

① 4セメ終了時点で卒業要件単位48単位以上を修得し所属ゼミが決定していた者で、5セメに真にやむを得ない理由で休学し、6セメに復学した者

② 「専門ゼミナールI」を履修開始した後に、真にやむを得ない理由で半期休学した者

- ③ 「専門ゼミナールⅠ」を履修開始した後に「専門ゼミナールⅠ～Ⅳ」のいずれかの単位を真にやむを得ない理由によって落とした者
- ※4 セメ終了時点で卒業要件単位 48 単位に達しなかった者の「専門ゼミナールⅠ」の半期遅れの履修（6 セメ履修開始）は対象外です。「専門ゼミナールⅠ」の履修は、最速で7セメからとなります。

2025年度 国際学部 専門ゼミナール I 一覧

No.	教 員 名	学科	ゼミのテーマ	メールアドレス	受入 上限	研究室
1	青木 洋高	観光	「食」を活用した地域プロデュース	yaoki@bunkyo.ac.jp	12名	3403
2	赤坂 雅裕	理解	「授業論」「部活指導」「食育」「特別支援教育」「いじめ」など、「子ども」と「教育」に関すること	akasaka@bunkyo.ac.jp	10名	3417
3	阿野 幸一	理解	英語教師になるための指導力養成 コミュニケーション能力育成のための英語指導法	k-ano@bunkyo.ac.jp	10名	3420
4	生田 亨	観光	旅行業 旅行業に関わるツーリズム産業(運輸産業、宿泊産業、旅行業クルーズ、行政機関等)の調査研究	tikuta@bunkyo.ac.jp	12名	3434
5	生田 祐子	理解	English for Global Engagement (世界で仕事をするための英語力))	ikuta@bunkyo.ac.jp	10名	3423
6	榎本 アンドリュー	理解	American Minority Studies	aenomoto@bunkyo.ac.jp	10名	3515
7	大森 一三	理解	哲学・倫理学を通じて時代社会を考える	omori013@bunkyo.ac.jp	10名	3421
8	海津 ゆりえ	観光	エコツーリズム・宝探し・地域づくりの循環を生み出す人づくり	kaizu@bunkyo.ac.jp	12名	3527
9	金井 恵理可	理解	在日外国人の人権・地方自治論・子どもの貧困など	kanai@bunkyo.ac.jp	10名	3513
10	北野 マグダ	理解	Culture in Media	magda@bunkyo.ac.jp	12名	3518
11	久保 泉	観光	ホテル業界全般(ホテルマネジメント、ホテル事業開発 ホテルサービス、ホテル事業の利害関係者との関わり等)	kuboi@bunkyo.ac.jp	12名	3528
12	久保庭 慧	理解	「法」と「会話」を通じて「世界」と「私たち」を理解する	kuboniwa@bunkyo.ac.jp	10名	3505
13	小島 克巳	観光	交通事業や交通政策に関する研究	kkojima@bunkyo.ac.jp	10名	3503
14	佐々木 優	理解	「変化する世界とどのように向き合い、どのように関わっていくか」を考える	s_sasaki@bunkyo.ac.jp	12名	3418
15	清水 麻帆	観光	コンテンツツーリズム、文化観光まちづくり(カルチュラルツーリズム)、コンテンツによる地域活性化・地域ブランディング形成、文化による地域活性化・地域ブランディング形成、都市の維持可能な発展	mamizu31@bunkyo.ac.jp	10名	3516
16	菅原 周一	観光	①企業分析で、企業の将来性や社会貢献度(SDGs)、魅力度を分析、評価②、社会や企業が抱える課題を見つけ、解決に向けた検討、提案を行う	suga8216@bunkyo.ac.jp	16名	3522
17	杉浦 功一	理解	世界の平和と政治について考える	ksugiura@bunkyo.ac.jp	10名	3419
18	杉山 富士雄	観光	イノベーション・経済成長と企業組織の経済学 ～コーヒーと回転寿司などの事例研究～	sugiyama@bunkyo.ac.jp	10名	3416
19	孫 美幸	理解	ホリスティックアプローチを通して、平和な未来、多文化共生社会を描く。 ～自分の将来につながる、共生のスキルを身につけよう！～	sonmihen@bunkyo.ac.jp	10名	3521
20	種村 聡子	観光	ホスピタリティ・マネジメント	stane@bunkyo.ac.jp	12名	3504

No.	教員名	学科	ゼミのテーマ	ゼミ履修に望ましい科目等	受入 上限	研究室
21	千葉 克裕	理解	効果的に外国語を身につける(教える)にはどうすれば良いのか? ー第2言語習得理論の理解と学びの実践ー	ch1ba@bunkyo.ac.jp	10名	3526
22	塚田 穂高	理解	世界と日本の「宗教」文化を中心に、文化と社会とのさまざまな 関わり方について広く勉強し、研究していくことで、現代社会の さまざまな問題についての理解力・リテラシーを養う	hotaka@bunkyo.ac.jp	10名	3415
23	利根川 由奈	観光	文化のマネジメントを学ぶ・体験する・実践する	cruela53@bunkyo.ac.jp	11名	3529
24	中井 治郎	観光	「歴史的まちなみと観光の共存を考える」	jiro@bunkyo.ac.jp	10名	3531
25	黛 陽子	観光	*バリ島でサステイナブルなツーリズムと地域ビジネスづくり *ヘリテージ(地球の遺産)を次世代へ残すプロモーション *農業を主題としたルーラルツーリズムの学びと実践 *ヘリテージ・インタープリテーション(ガイド)の実践 「自ら知る・調べる→創造する→伝える→保護・保全への動機づけを相手 手に与える」	mayuzumi@bunkyo.ac.jp	10名	3525
26	本浜 秀彦	理解	日本研究(ニッポンを映画制作という視覚文化の実践を通して 考え、表現する)	motohama@bunkyo.ac.jp	10名	3514
27	八木 良太	観光	企業の経営戦略とマーケティング	yagi@bunkyo.ac.jp	10名	3536
28	山田 修嗣	理解	ステキな「まちづくり」の研究 ～これからの「望ましい社会」にむけた市民と地域の検討～	yamashu@bunkyo.ac.jp	12名	3413
29	渡邊 暁子	理解	「人びとの目線から現代社会の課題を考える」 キーワード:文化人類学、フィールドワーク、宗教、貧困、格差、社会的 排除、移民・難民、マイノリティ、国際開発支援	watanabe@bunkyo.ac.jp	10名	3517
30	渡邊 三津子	理解	地理学の視点から地域(空間)を読み解く	m.watanabe@bunkyo.ac.jp	10名	3512

担当者名	青木 洋高
e-mail アドレス	yaoki@bunkyo.ac.jp
研究室	3403 研究室
出講日	火・水・金
ゼミの開講時間	金 4 限
担当科目	フードツーリズム論、食の文化論、地域プロデュース論、プロジェクトマネジメント、ホスピタリティ演習 A (フード) など
研究室を訪問できる時間帯	金曜の 3 限はオフィスアワーです。柔軟に対応しますので、まずはメールでお知らせください。
ゼミのテーマ	「食」を活用した地域プロデュース
ゼミの内容・メッセージ	<p>地域をフィールドにして「食」をテーマにした実践的な活動を行います。教室ではフードツーリズムの先行研究や社会調査の方法、プロモーション戦略、プレゼンテーションの技法などを学びます。</p> <p>2024 年度の主な活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春学期：埼玉県北本市「北本トマトカレー」についてのフィールドワーク、調査、プロモーション戦略について市長へ提言プレゼン。 ・秋学期（予定・学生が複数選択）：伊豆急行が開発したオリーブオイルを活用したご当地グルメ開発、静岡県富士市の「ほうじ茶」のブランド化、草加市のローカルWEBメディアと連携した谷塚駅周辺のグルメガイドの出版、Z 世代やインバウンド旅行者など設定したターゲットに向けた効果的なプロモーション戦略の立案など。
ゼミの進め方	フィールドワークをベースにした実践的な活動を主としながらも、教室でのインプットやディスカッションの時間も大切にします。テーマによっては、少人数でチームを組成し活動を行います。
留意事項 (Requirement など)	地域の魅力や取り組みは、ターゲットにしっかりと伝わるのが大切です（これが難しい！）。ゼミの活動においても効果的な情報発信をすること（一人一人がプロモーターになること）を心掛けています。フィールドワークやゼミ旅行は費用がかかること、開講時間以外の活動があることについては留意してください。
ゼミ履修に望ましい科目	フードツーリズム論、食の文化論、地域プロデュース論（いずれも 3 年生以上対象の科目です）
定員	12 名（フィールドワークを行うため）
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接
ゼミ受入決定者への指示	オリエンテーション（現在の 3 年生との顔合わせ）を実施します。
代表的な卒業論文のテーマ	2024 年度にスタートしたゼミですので、まだ卒業生はおりません。
所属ゼミ生（先輩）からの一言	<ul style="list-style-type: none"> ・個性を尊重し合える人に来てもらいたいです。食文化を通じた観光や地域づくりに興味を持つ人は、特にやり甲斐があると思います。 ・全員がフレンドリーな関係でゼミ、課外活動に活発に取り組んでいます！ ・食についてとても詳しく、旅行ガイドブックやご当地グルメを作った経験がある先生の視点が鋭く、勉強が面白く感じました。 ・「食」が観光の目的となっていることに着目し、研究をしています。観光施設がなくてもアイデア次第で旅行者を呼ぶことができ、地元の商品を活用することで 6 次産業化につなげることができます。

担当者名	赤坂 雅裕 (あかさか まさひろ)
e-mail アドレス	akasaka@bunkyo.ac.jp
研究室	3417
出講日	月・水・木・金曜日
ゼミの開講時間	木4 (3年生)、木5 (4年生)
担当科目	[春学期] 教育原理、教職概論、総合的な学習、社会科公民科教育法Ⅰ、社会科公民科教育法Ⅲ、4年・3年ゼミ、教育実習(中学) [秋学期] 道徳教育、特別活動論、4年・3年ゼミ、教育実地研究、教職実践演習
研究室を訪問できる時間帯	昼休み
ゼミのテーマ	私自身は、道徳教育と特別活動を中心として、教育学全般に関心があります。 ゼミとしては、「授業論」「部活指導」「食育」「特別支援教育」「いじめ」など、「子ども」と「教育」に関するものでしたら、何でもOKです。
ゼミの内容・メッセージ	「いじめ」「不登校」「キレる子」「モンスターペアレンツ」「学級崩壊」・・・教育現場は、問題が山積しています。そして、それらの問題への有効な方策を見出すことができず、先生方は心身共に疲れ果てています。 これではいけません。日本の教育を向上させる方策を我々で見出し、提案しましょう。 子どもが大好きで、教育に関心があるあなた、教師になりたいという夢を抱いているあなた、どうぞ国際学部でただ一つ教育学を専門的に学ぶことができる赤坂ゼミの門を叩いてください。心と実践的指導力のある教師をみざして、共に歩んでいきましょう。
ゼミの進め方	① 3年春学期は、1年教職学生との交流学習の企画・準備・実践を行います。 ② 3年秋学期から、自分の研究テーマを決め、各自の発表に基づく意見交換を行い、卒論を書き始めます。中学校との交流会も持ちます。 ③ 4年次は、このディスカッションをもとに、卒業論文執筆に専念します。 ④ 卒論執筆と同時に、多くのゼミ行事をこなしていきます。特別支援学級の生徒との交流会(5回)、卒論検討会、福島スタディーツアー、長野スタディーツアー、八ヶ岳合宿などを行います。
留意事項 (Requirement など)	中学校との交流会などのゼミ活動には、特別な理由がない限り必ず参加していただきます。
ゼミ履修に望ましい科目	教職科目すべて
定員	10名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接にて選抜します。
ゼミ受入決定者への指示	後日行います。
代表的な卒業論文のテーマ	自己有用感を高める特別活動、「生きている」を実感するための人間教育、外遊びで形成される「共生」能力 など。

所属ゼミ生(先輩)からの一言	<p>赤坂ゼミは、いつも「笑顔」で溢れています。</p> <p>赤坂先生が目指す「人を愛する教育」は、思いやりに包まれ、とても温かいものです。福島や長野へのスタディツアーもあります。</p> <p>実際に学校現場に行って、子どもたちにふれあうことができるゼミなので、「子ども」を学ぶとか、人間教育を学びたいとか、教師としての指導力をつけたいという人には、いいゼミです。</p> <p>特に将来、教師になりたいという人には、最もよいゼミだといえるでしょう。</p>
----------------	---

担当者名	阿野 幸一 (あの こういち)
e-mail アドレス	k-ano@bunkyo.ac.jp
研究室	3420
出講日	月曜日・火曜日・水曜日・木曜日・金曜日 (週に1・2回は教員研修の講師等で不在)
ゼミの開講時間	木曜4限(3年生)、木曜5限(4年生)
担当科目	【春学期】英語科教育法Ⅲ、英語音声学、教育実習A、大学院科目 【秋学期】英語科教育法Ⅰ、英語科教育法Ⅱ、英語科教育法Ⅳ、コミュニケーションのための英文法、教職実践演習、大学院科目
研究室を訪問できる時間帯	基本的には終日大学にいます。研究室のドアに予定を掲示しています。
ゼミのテーマ	英語教師になるための指導力養成。コミュニケーション能力育成のための英語指導法をゼミ生全員で追求します。
ゼミの内容・メッセージ	将来英語教師として教壇に立つことを希望する学生を主な対象としたゼミです。学校教育における小学校、中学校、高等学校での英語の授業について、それぞれの学習段階に応じた指導について考えます。これからの日本の英語教育をリードしていく教師を、阿野ゼミから輩出したいと思っています。すでに100名を超えるゼミ卒業生が教員として活躍しています。主役はあくまでもゼミ生。意欲に満ちた皆さんと一緒に、熱く、素敵なゼミを作りたいと思います。
ゼミの進め方	英語教育に関するテーマをゼミ生が主体的に研究し、発表し、ディスカッションします。並行して、イベント(小中高生向けの英語ワークショップでの指導、他大学との共同研究発表など)に向けて準備・研究をします。学校など英語教育現場への訪問やゼミ合宿などを随時実施します。4年生は卒業論文の作成を、教育実習や教員採用試験に向けた勉強と並行して行います
留意事項 (Requirement など)	小中高の授業見学や学習指導、また合同ゼミなどに向けたプロジェクトを行うことが多いので、協力して主体的に取り組みましょう。
ゼミ履修に望ましい科目	英語教職課程の学生を主な対象とするので、英語教職科目全般。
定員	学校訪問等の実施をふまえて、10名まで募集します。
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	希望者全員と面接を行い、志望理由書等も加味して選抜を行います。特に英語教育に対する熱意と意欲を重視します。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ決定後にオリエンテーションを行い、ゼミ開始前の学習の指示等を行います。メンバー決定後に、実質的にゼミ活動がスタートします。
代表的な卒業論文のテーマ	「授業分析から学ぶ英語の授業」「学力差に応じた英語指導」「英語の楽しさを伝える授業作り」「小中連携を意識した英語教育」など
所属ゼミ生(先輩)からの一言	<ul style="list-style-type: none"> ・阿野ゼミでは、英語教育を専門的に学び深めることができます。英語教育・英語学習に関する知識を一人ひとりが主体的に学び、授業実践につなげていきます。実際に学校を訪問して授業を見学して現場の先生方にお話を伺ったり、小中高生に英語を教えたりする機会もあります。また、教育について学んでいく過程で英語力の向上にも繋がっています。英語教育に関心のある仲間と一緒に充実した2年間を送り、自分自身を成長させてみませんか？ ・阿野ゼミでは英語教師になりたい人や英語教育に興味がある向上心の高い人が共に学ぶことができる環境が整っています。英語教育では、自分の受けてきた教育を振り返り、現在の教育との比較を行い、理想の英語教育を追及し、英語学習では、効果的な方法を学んだり考えたりする機会がたくさんあります。英語教育や英語学習について楽しく学び、知識を深めるとともに、英語をより身近に感じることができます。一人一人が仲間でありライバルのような存在なので、切磋琢磨して高め合い、卒業時にはゼミに入った時と比べて大きく成長することができます。

担当者名	生田 亨 (いくた とおる)
e-mail アドレス	tikuta@bunkyo.ac.jp
研究室	3434
出講日	火・水・金曜日
ゼミの開講時間	3年生：金曜日4限、4年生：金曜日5限
担当科目	旅行業論、旅行法規、観光マーケティング論、トラベルビジネス論、ホスピタリティー演習 D (旅行業)、トラベル実務、キャリア形成 B、新入生ゼミ、基礎ゼミ、専門ゼミ
研究室を訪問できる時間帯	Google ドライブの「各ゼミ参考資料」に訪問可能時間を記載します。事前にメールで予約ください (水曜日、金曜日の対面予定)
ゼミのテーマ	旅行業と、旅行業に関わるツーリズム産業 (運輸産業、宿泊産業、旅行業、クルーズ、行政機関等) の調査研究
ゼミの内容・メッセージ	<p>旅行業及びツーリズム産業を研究します。文献調査やフィールドワークを通じて、産業における課題研究や、企業分析等を行います。また、チームや個人での発表機会を多く設けます。ゼミを通じて、学生生活を楽しみ、学問的視野を広げ、社会への理解を高め、将来、社会で活躍できる人材の育成を目標とします。</p> <p>ゼミへの積極的な参加意識があり、旅行業及びツーリズム産業に関心がある学生の応募を期待します。</p>
ゼミの進め方	<p>3年生の春学期では、旅行業及びツーリズム産業の行政、業界、企業研究に軸足を置きます。企業研究では、企業戦略、商品、マーケティング、財務、企業理念、SDGs 等の分析を行い、基本的な産業の理解を深めます。フィールドワークとして、ホテル、空港、旅行会社などの企業訪問も予定しています。また、社会人や文教OBから、業界・企業の最新状況、4年生から、就職活動や卒論の助言の機会も設けます。</p> <p>秋学期は、春学期で学んだ研究手法を更に深耕し、旅行業やツーリズム産業の課題を研究します。前期は、コロナ後の観光人材不足、観光 DX、オーバーツーリズム、SDGs 等の発表がありました。ゼミ合宿は、去年は関西方面、今年はシンガポールを訪問しました。</p> <p>4年生ゼミは、卒論の作成を最終目的として、活動を行います。春学期では、3年ゼミで学んだ、業界や企業の分析手法をベースに、先行研究調査を行い、論文のテーマを決めていきます。夏休みには、研究課題の仮説に対しての、現地調査等を行います。秋学期では、論文構成を定めて執筆をすすめ、中間発表を行いながら、卒業論文を完成させます。</p>
留意事項 (Requirement など)	ゼミ活動は毎回参加が原則。ゼミ合宿も、春学期の研究と連動させるので参加が前提です。合宿には費用がかかります。
ゼミ履修に望ましい科目	ホスピタリティー演習 D (旅行業)、旅行業論、トラベルビジネス論、観光マーケティング論 等
定員	12名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	書類審査、面接、成績等で決定します。旅行業・ツーリズム産業の研究に興味があること。ゼミ活動をチームで推進できる「コミュニケーション力」を重視します。
ゼミ受入決定者への指示	受け入れ決定者にはオリエンテーションを行います。
代表的な卒業論文のテーマ	「MICE におけるユニークベニユーの重要性」、「日本における医療ツーリズムの方向性」、「ポストコロナ後のワーケーションの成長性」

	、「埼玉県におけるアニメツーリズム」 等
所属ゼミ生(先輩)からの一言	<p>生田先生のゼミナールでは、先生の専門分野であるツーリズム産業全般について学ぶことができます。一つの分野に絞った学習ではないため、将来観光系の職業に就きたいと考えている人はもちろん、まだ職業を決められていない人にもお勧めしたいゼミです。また、空港やホテルへのフィールドワークに連れて行ってくれるので、講義では学べないことを現地で学習することができます。さらに生田先生は私たちゼミ生一人一人にしっかりと目を向け、ゼミ内での懇親会、ご飯会などを定期的に開催してくださったり、全面的に就活のサポートをしてくださったりと、とても心強い存在です。私は生田先生のその明るい人柄と頼れる安心感から、このゼミナールに入って良かったと感じています。みなさんも是非生田先生のもとで楽しいツーリズムライフを送ってみませんか？ (3年ゼミ生)</p>

担当者名	生田 祐子 (いくた ゆうこ)
e-mail アドレス	ikuta@bunkyo.ac.jp
研究室	3423 (ゼミは 3302 教室・4 年は研究室を使用予定)
出講日	火曜日・水曜日・金曜日
ゼミの開講時間	金曜日 4 時限と 5 時限 (4 時限は 3 年生・5 時限は 4 年生) ゼミ訪問ができる日: 10 月 4 日・10 月 11 日 (対面) 見学希望者は、できるだけ事前にメールをください。
担当科目	言語学 Global English (多様な英語世界) 英語コミュニケーション論 社会言語学 通訳入門 英語科教育法 IV 基礎ゼミナール 応用ゼミナール 専門ゼミナール I~IV 多文化理解概論@文学部
研究室を訪問できる時間帯	対面では原則出講日の昼休みと空き時間ですが、オンラインでは柔軟に対応します。メールで希望時間を複数お知らせください。
ゼミのテーマ	English for Global Engagement (世界で仕事をするための英語力)
ゼミの内容・メッセージ	英語教育・国際協力・一般企業など多様な分野において、国際社会とつながるプロフェッショナルな英語コミュニケーション力を養い、卒業研究の専門的なテーマを英語で解説できることが、このゼミの目標です。そのために英語による模擬国連や国際協働オンライン活動を通して、少し高度で実践的な英語を日常的に使用しつつ、「リングフランカとしての英語によるグローバルな対話力」を鍛えるプチ留学のような英語体験ができます。 こんな進路に関心のある学生におすすめ: 大学院進学、国連や JICA のような国際機関やグローバル企業、国際理解の視点からの英語教育、日本語教育、メディア、通訳
ゼミの進め方	3 年生: 英語を使うことを日常とし、英語で世界とつながる! 1. 2025 英語模擬国連(JUEMUN)@京都外国語大学に参加:(春学期) → 英語の語彙を増やし思考力を鍛え、「対面で」英語コミュニケーション力を鍛えます。 2. SDGs のゴールに関連する卒研につながるテーマを決め、オンライン国際学生会議で発表(英語)する。(秋学期) → 春学期に鍛えた英語力を「デジタル空間」でさらに強化します。 4 年生: 卒業研究と英語を使う進路の開拓。国際社会と言語、英語教育、国際理解教育、国際協力(観光も含む)分野等、個人のテーマは多岐に渡りますが、研究結果から社会へ提案できることを見つけます。日本語で執筆、発表を英語で行います(留学生は原則全て英語)。国際機関や教育機関でのインターンやボランティア、留学や大学院進学も支援します。
留意事項 (Requirement など)	1. 3 年次に「社会言語学」(春)「通訳入門」(秋)を履修 2. 英検準 1 級/TOEIC800 点以上を目標とすること。応募時の英語力は問いませんが、不安な学生は事前に相談ください。 3. 海外研修、個人留学、ボランティア、インターンシップなどに積極的に経験し、卒業研究のフィールドを見つける。
ゼミ履修に望ましい科目	Global English (多様な英語世界) 英語コミュニケーション論
定員	学外活動の人数制限があるため、10 名とします。
選抜を行う必要性が生じたときの方法	英語と日本語による面接
ゼミ受入決定者への指示	決定後、対面またはオンラインで顔合わせをします。
代表的な卒業論文のテーマ	“A Case Study of Motivation for Language Learning” 『言語学習における動機づけの一研究』“Environmental Factors when English becomes a Lingua Franca” 『英語がリングフランカになるための環境要因』“Towards Multi-cultural Coexistence with Foreign Residents” 『在留外国人との多文化共生を目指して』 → 研究室で閲覧できます。
所属ゼミ生(先輩)からの一言	①生田ゼミでは模擬国連などフィールドワークが多くあり、貴重な経験が積めます。将来世界を目指したい方や国際的な仕事をしたい方は沢山の機会や刺激を得られると思います。(T.S. さん) ②生田ゼミでは自発的に行動すべきことが多く、活気に満ちたゼミです。自ら行動ができるからこそ本当にしたいことの核が見つかると思います。将来国際的に働きたい方は機会に溢れると思います。(H.F. さん)

担当者名	Dr. Andrew Enomoto (榎本 アンドリュー)
e-mail アドレス	aenomoto@bunkyo.ac.jp
研究室	3515
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木曜日 4 限 ((3 年生) 5 限 (4 年生)
担当科目	EIC 101, 102, 103, 104 英語表現 B 基礎ゼミナール 専門ゼミナール I,II,III,IV
研究室を訪問できる時間帯	昼休み
ゼミのテーマ	American Minority Studies
ゼミの内容・メッセージ	American Minority Studies provides a multidisciplinary analysis of the subordinate/dominant statuses of individuals and groups by recognizing the impact of race/ethnicity, gender, and socioeconomic class of individuals and groups in relationship to American society. The course is designed to foster critical analysis of the issues of difference in our society and to prepare students to understand and interact with people from diverse backgrounds and cultural perspectives throughout their lives. Art, literature, historical analysis, economic analysis, and/or music will be utilized to understand the cultural differences.
ゼミの進め方	Students go through several units throughout the course of each semester. Each unit covers a different minority group in the US. At the end of each unit students create small presentations and participate in discussions. The contents of each course will utilize several mediums such as textbook readings, news articles, YouTube videos, Netflix documentaries and original content. Students will also simultaneously be doing research and writing their final paper.
留意事項 (Requirement など)	Students who join this seminar should have a strong desire to learn English as all the materials will be in English. Students should also be willing and ready to write and present and discuss in English.
ゼミ履修に望ましい科目	As many English courses as possible
定員	10 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接と英語の授業の成績
ゼミ受入決定者への指示	後日に Google Classroom のサインアップリンクを送ります。
代表的な卒業論文のテーマ	Any subject concerning minorities in the US. Previous students have written about “Importance of Queer Art” “American Education and Critical Race Theory” “Asian American Influence in American Culinary Culture”
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	アメリカについて知りたかったらアンドリュー先生のところへ！！ アメリカ社会におけるマイノリティについて、現状、過去色々学べます。他の授業では得られない知識や見方もたくさん学べます。英語もわかりやすいので、ちょっと英語に自信ないな・・・と迷っている方でも大丈夫だと思います！！ 私たちのゼミでは毎週楽しく、そして自由な雰囲気の中で学ぶことができます。また、今は少人数なので先生とたくさん会話したり意見交換することができるのも魅力です。とても学び甲斐があるゼミなので興味があれば是非検討してみてください！

担当者名	大森 一三
e-mail アドレス	omori013@bunkyo.ac.jp
研究室	3421
出講日	月、水、木
ゼミの開講時間	木曜 4 限（三年生）、木曜 5 限（四年生）
担当科目	【春学期】哲学、新入生ゼミナール、応用ゼミナール、歴史哲学 【秋学期】外国史 A（西洋）、地域研究 A（ヨーロッパ）、西洋思想と国際社会、倫理学
研究室を訪問できる時間帯	上記出講日。ただし授業と会議の時間は不可、事前にメールでアポイントを取ってください。
ゼミのテーマ	哲学・倫理学を通じて時代社会を考える
ゼミの内容・メッセージ	<p>哲学・倫理学の研究を通じて、現代社会の諸問題を批判的に洞察し、その諸問題に対する自分の考えをまとめ、表現するための力を身につけることが本ゼミの目的です。哲学や倫理学、思想や宗教、さらには人間の心、生老病死、教育、技術、格差、さまざまな社会問題等に興味・関心がある方には、特におすすめです。</p> <p>また、社会科教員（特に公民・倫理）を志望される方にとっても、専門教育として役立つと思います。</p> <p>なお、本ゼミでは自主性とそれぞれの問題意識を大切にしたいと思います。人生で密かに抱いてきた疑問やテーマや憤り（例：「生きる意味は何か」とか「神はいるのか」「なぜ、この世界はこんなに酷いのか？」「学校はいい場所と言えるのか」…等々）を各自の研究として昇華してゆくことができればと思います。</p>
ゼミの進め方	年間に少なくとも 1、2 冊の哲学書を通読する予定です（現時点では日本語のものを読む予定です）。毎回、レポーターを定め、議論をしながら読んでゆきます。また、機会に応じて、参加者の卒論や個別研究テーマについての文献講読や議論の時間を設けてゆきます。
留意事項 (Requirement など)	哲学はあらゆる分野や問題意識とつながる学問です。多様な興味、関心を持った方の参加を歓迎します。ただし、本ゼミでは哲学書を読み、自分で文章を書くこととなりますので、思索だけではなく、読書や文章表現能力も必要となります。
ゼミ履修に望ましい科目	必ずしも受講する必要はありませんが、「哲学」「倫理学」「歴史哲学」「外国史 A（西洋）」を受講しておくことで授業理解に資すると思います。
定員	10 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	志望理由書の提出（状況に応じて、面談も実施します）。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ決定後に、全員で集まる日を定め、連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	
所属ゼミ生（先輩）からの一言	

担当者名	海津ゆりえ
e-mail アドレス	kaizu@bunkyo.ac.jp
研究室	3527 (5階の真ん中あたり)
出講日	春：月・水・木、秋：火・水・木
ゼミの開講時間	3年は木曜4限、4年は木曜5限
担当科目	春学期：国際学入門、持続可能な世界、国際学 D、エコツーリズム論、専門ゼミナールⅠ、専門ゼミナールⅢ、国際学総論*、サステナブル・ツーリズム特論*、研究指導* 秋学期：観光地域の創造と運営、専門ゼミナールⅡ、専門ゼミナールⅣ、地域計画特論*、研究指導* (*は大学院科目)
研究室を訪問できる時間帯	上記の講義日の昼、放課後などですが、日によって予定が変わりますので、まずはメールでご相談ください。
ゼミのテーマ	エコツーリズム・宝探し・地域づくりの循環を生み出す人づくり
ゼミの内容・メッセージ	フィールドワークを通して地域や人々に学び、学生が関わることで地域が持続的に発展する方法について考え、その結果を形にしてフィールドバックします。このサイクルがゼミの主たる内容です。ゼミの目標は、ゼミの学びを通して地域づくりに貢献する人財を育てることです。3年ゼミでより多くの地域と出会い、4年ゼミでは自分のテーマを見つけて卒業研究を行い、論文を執筆します。五感を磨き、旅する力をつけ、大いに学んでください。 次のような学生にお勧めです⇒フィールドワーク力を身に着けたい、観光の力で地域づくりを実現したい、災害復興について学びたい、旅する力をつけたい、海津ゼミで学んでみたい 等。
ゼミの進め方	3年生 ① 地元学：足立区と草加市をフィールドとした「地元学」を実施します。基礎調査⇒提案⇒制作・実践⇒評価を行います。地域のイベントにもできる限り参加します。 ② 合宿：春は房総半島、夏は八丈島で合宿を行います。自然の中でエコツアーを体験し、調査を行います。 ③ 歩く・見る・聴く：震災復興のシンボルとして整備されたみちのく潮風トレイルを題材に、観光と災害復興のつながりを体感し、考えます。 ④ サイドプロジェクト：希望者が参加します。対象地は岩手県宮古市、福島県磐梯地域（テーマ：災害と観光）、神奈川県鎌倉市（テーマ：新たな魅力発見）等。4年次にも継続可能です。 ⑤ 一人旅：ゼミ期間内に一人旅を行うことを課しています。 4年生 各自のテーマを立て、卒業研究に取り組み卒論執筆を行います。
留意事項 (Requirement など)	・2年次の春休み中に課題を出題します。 ・合宿時には旅費やツアー参加等の費用がかかります。
ゼミ履修に望ましい科目	持続可能な世界、地域プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ、エコツーリズム論 (3年春に履修)
定員	12名程度
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面談を行います。
ゼミ受入決定者への指示	全員が決まったのちにガイダンスを行います。
代表的な卒業論文のテーマ	自分の問題意識とテーマに適した“研究フィールド(地域)”を決めることが海津ゼミの卒論ルールです。地域活性化、伝統文化や災害の継承、自転車問題、オーバーツーリズム問題などテーマは多彩です。気軽に研究室に見に来てください。

所属ゼミ生(先輩)からの一言

海津ゼミに入ると、旅行に行った時に地域の人と仲良くなれます！
／今まで行ったことのない場所にたくさん行けます！／地域の宝探しを通じて、素敵な自然や人との出会いに楽しさを感じることができます！／海津ゼミはエコツーリズムや地域活性化について研究していくゼミです。フィールドワークがとても盛んでアクティブなゼミです。／各地の美味しい食べ物にであえます！とてもおすすめのゼミです。／アクティブに活動できて最高に充実感があるゼミ／人と話したり、活動に積極的に参加したい人にはもってこいのゼミで、おすすめです！

担当者名	金井 恵里可
e-mail アドレス	kanai@bunkyo.ac.jp
研究室	3513
出講日	火、水、金
ゼミの開講時間	金曜 4 限
担当科目	法律学(第 1 セメスター)、日本国憲法(第 2 セメスター)、憲法学(第 3 セメスター)、法と行政 I (第 4 セメスター)、法と行政 II (第 5 セメスター)、国際化する社会の中の法 (第 6 セメスター)
研究室を訪問できる時間帯	火曜昼休み～4 限、水曜 2 限(第 3 週を除く)～昼休み、金曜 2 限～3 限
ゼミのテーマ	在日外国人の人権・地方自治論・子どもの貧困など
ゼミの内容・メッセージ	憲法学・行政法学の基礎知識を身につけるとともに、関連する社会問題について調べ、ディスカッションします。例えば入管・難民法の改正は在日外国人の人権保障に役立つのか、地方分権は地方自治を推進できているのか、子育て支援政策は貧困の連鎖を断ち切ることができるのか。これらはすべて憲法と行政法に関連する課題です。「今ここで起こっていること」を解くヒントを一緒に探してみましよう。上の例に限らずテーマの持ち込み大歓迎です。
ゼミの進め方	ゼミは三つのパートから構成されます。第一のパートは、ゼミ教員の担当科目を履修し、授業で取り扱う重要判例の解説を担当することによって、憲法と行政法の基礎知識を身につけることです。第二のパートは、この基礎知識をもとに個々人の関心のある領域を深掘りし、発表とディスカッションを経て卒論に結びつけることです。第三のパートは、政策現場・事件の現場を知ることです。メンバーの興味関心に応じて年度ごとに企画を立ち上げます。
留意事項 (Requirement など)	・インターンシップや学外研修への参加準備を 3 年生の春休みから始めてください。(詳細は 1 月の顔合わせで指示します) ・公務員志望者・法学系資格試験の受験生には、個々人の進度に合わせて、通信講座の受講・参考書の購読等を薦めることがあります。
ゼミ履修に望ましい科目	法学系の科目 1 科目以上 (担当者は問わない)
定員	10 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接
ゼミ受入決定者への指示	1 月中に顔合わせを行うので、出席して下さい。
代表的な卒業論文のテーマ	「ヘイトスピーチと表現の自由」「外国人の人権と多文化共生社会」「フィリピン残留日本人孤児」「難民認定制度の問題点」／「婚外子差別から見る戸籍・国籍の意義」「子どもの貧困」「児童虐待の現状と対策」「学校に行かない権利」「学校事故の過失責任」／「性的マイノリティの人権」「日本におけるジェンダー問題」「日本での同性婚の可能性」／「安楽死の可罰的違法性」「SNS における表現の自由」「GAFAM 時代の消費者プライバシー」／「AI を用いた防犯と犯罪捜査」「自動運転の法問題」「受刑者の処遇と社会復帰の権利」「地域コミュニティの防災」ほか／(2023 年度)「黒人差別の解決に向けて」「多文化共生社会の構築」「現代日本の LGBTQ」「包括的差別禁止法導入の可能性」「在日外国人への人道配慮政策」

所属ゼミ生(先輩)からの一言	<ul style="list-style-type: none">・金井ゼミナールのいいところは、先生と私たち学生の距離が近く、何でも相談できる雰囲気です。授業のことや進路のことなど、先生が親身になってくださるおかげで、大学生活を充実できています。・ゼミと授業の両方で重要判例を担当するため、公務員試験や資格取得に非常に役立ちます。法学に興味のある人は受験レベルを超えて考えを深められる絶好の場という点が、金井ゼミの魅力だと感じます。
----------------	---

担当者名	北野 マグダ (きたの まぐだ)
e-mail アドレス	magda@bunkyo.ac.jp
研究室	3518
出講日	火・水・金
ゼミの開講時間	金4 (3年生)、金5 (4年生)
担当科目	EIC101、EIC201、EIC301、英語表現 A、翻訳入門、基礎ゼミナール
研究室を訪問できる時間帯	火2、火4、水2
ゼミのテーマ	Culture in Media
ゼミの内容・メッセージ	In this seminar, we will not study English. Rather, we will use English to learn and exchange our opinions. (The degree to which English is used during seminar meetings will be determined by the class and necessity.) The topic is "Culture in Media," and the class will focus on cultural studies with an international focus through media such as movies, television, journalism, advertising, education, and the Internet. Students will choose one area of interest to study in depth.
ゼミの進め方	Every other week, a new topic will be presented, followed by discussion. Then students will research more on the topic, and present their findings for further class discussion the next week. Students will write semester reports for the first two semesters. During the final year, students will work on a year-long thesis.
留意事項 (Requirement など)	You must write your final thesis (20 pages) in English. At least 450 in CASEC is strongly recommended.
ゼミ履修に望ましい科目	English electives that focus on skills in writing and discussion, or as needed by the individual. 英語表現 A is useful.
定員	12
選抜を行う必要性が生じたときの方法	Interview in English.
ゼミ受入決定者への指示	Work on your English skills, such as by reading English books and Internet sites for pleasure. Watching movies and dramas is also useful, as we will be discussing and comparing them in the seminar.
代表的な卒業論文のテーマ	Unnatural Family Dinner Scenes in Japanese Dramas, Product Placement of Porsche Cars in Movies, Crime in America and American Crime Dramas, The Roles of Fathers and Mothers in Ghibli Movies, Comparison of Foreign and Domestic Tourist Guide Books of Tokyo
所属ゼミ生 (先輩) から の一言	

担当者名	久保 泉
e-mail アドレス	kuboi@bunkyo.ac.jp
研究室	3528
出講日	火曜日、水曜日、金曜日
ゼミの開講時間	金曜日 4 限（3 年生）、5 限（4 年生）
担当科目	ホテルサービス論、ホテル事業論、ホテルマネジメント論、ホスピタリティ演習 B、ホスピタリティ人材開発、キャリア形成 A
研究室を訪問できる時間帯	事前にメールで連絡ください。（水曜日及び金曜日の空き時間）
ゼミのテーマ	ホテル業界全般（ホテルマネジメント、ホテル事業開発、ホテルサービス、ホテル事業の利害関係者との関わり等）
ゼミの内容・メッセージ	ホテルと聞くと「おもてなし」やフロント、レストランなどのサービスがまず思い浮かぶと思います。しかし、ホテルはそれだけではありません。ゼミでは、ホテル事業の成り立ち、ホテル運営の裏側などホテルを多面的に捉え、ホテル運営に関する理解を深めることを目的としています。そして、主役はあくまでもゼミ生自身で、教員は脇役です。積極的に議論に参加したい学生を歓迎します。また、就職先にホテル業界を考えていない方も大歓迎です。
ゼミの進め方	3 年生はホテル業界に関する様々な課題について、グループワークで調査、研究、発表し、全体で批評する形式で進めます。併せて、外部で開催される展示会、コンテスト等にも参加予定です。 4 年生は、3 年生のゼミ活動等を通して修得した知識・理論を元に、現在の社会課題に関する卒業研究を進め、論文を執筆します。
留意事項 （Requirement など）	3 年生春・秋学期はグループワークが中心です。他人任せではなく、積極的、主体的な態度での参加を必須とします。また、課外活動への参加を予定していますので、経済的負担がある事を予めご承知おきください。
ゼミ履修に望ましい科目	ホテルサービス論、ホテル事業論、ホテルマネジメント論など
定員	12 名程度
選抜を行う必要性が生じたときの方法	志望理由書と面接で選抜します。
ゼミ受入決定者への指示	個別面接、対面での顔合わせ等を実施予定です。実施日時、場所等は別途案内します。
代表的な卒業論文のテーマ	24 年度 4 年生が取り組む主な論文テーマ <ul style="list-style-type: none"> ・ホテル業界のホスピタリティーについて ・テーマパークのデジタル化に関する課題について ・日本国内のシニア世代の旅行需要について ・サービスロボット導入による顧客満足度の変化について ・プラスチック資源循環促進法によるホテルアメニティに対するホテル業界の取り組みと顧客満足度への影響について など
所属ゼミ生（先輩）からの一言	こんにちは！久保ゼミナールです。私たちは主にホテルのことについて学んでいます。春学期は、「もし足立キャンパス内にホテルを建てるとしたら」と仮定して、グループで調査、研究など自分たちで考える活動をしました！久保ゼミナールは今年できたばかりなので 1 期生として、私たちが主体となり活動しています。将来ホテルで働きたい、ホテルに興味があ

る、自分たちが主体となって授業したい！という方におすすめです。将来したいことが決まっていないという人ももちろん大歓迎です！いつでも見学待っています！♡ Hello everyone! Interested in hotel management and related fields? Come to join our seminar and let's study the hotel industry together. Mr. Izumi Kubo, a former hotelier from Hotel Okura, will be sharing his insights. Our seminar has a relaxed and friendly atmosphere where you can suggest topics as you like. Looking forward to meeting you all at our seminar!

担当者名	久保庭 慧 (くぼにわ さとし)
e-mail アドレス	kuboniwa@bunkyo.ac.jp
研究室	3505
出講日	月曜、水曜、木曜
ゼミの開講時間	木曜 4 限 (3 年生ゼミ)、5 限 (4 年生ゼミ)
担当科目	国際学入門、国際関係論、国際機構論、国際理解と法・政治 (法学分野)、国際人権保障論、応用ゼミナールなど
研究室を訪問できる時間帯	出講日の空き時間 (月曜: 昼休み、5 限、水曜: 午後以降、木曜: 昼休み、3 限) であれば基本的にいつでも可です。ただし、確実を期すために事前にメールでアポイントをとって頂けると助かります。
ゼミのテーマ	「法」と「会話」を通じて「世界」と「私たち」を理解する
ゼミの内容・メッセージ	<p>このゼミでは、担当教員の専門である法学 (国際法) を分析の「めがね」として用いながら、世の中で生じている現象を眺め、考え、ゆくゆくはそれを最終的な成果物 (卒業論文) として形にすることを目指します。こうした目標を達成するために必要な能力を一から身につけるお手伝いをしたいと思います。派手な活動はありませんが、久保庭やゼミの仲間、先輩たちとの会話や議論の中でじっくりと思考を深めていく、そういう大学ならではの学問的な体験を重視したゼミにしたいと思っています。例えば次のような方にお勧めです。</p> <p>① 何らかの久保庭の授業を受けて、全てではなくとも、何かしら特定の話題やテーマについて面白いなと思ったり、自分の興味関心のアンテナに引っかかったりした方、そしてそれらをより深めてみたい方。</p> <p>② 法学や国際関係に関心のある方はもちろん、法学自体にはそこまでの関心はないけど、社会的な問題を分析するための「視点 (ものの見方)」を身につけたい方。(国際) 法は何でも分析の対象にできます。</p> <p>③ 今のところ法学に関心はないどころか、そもそも何に関心があるのかすらまだはっきり分かっていないけど、久保庭や他のゼミ仲間との学問的な「会話 (おしゃべり)」に 2 年間付き合っても良いという方 (実はこの③に当てはまる方こそ一番おすすめかも)。ゼミで仲間と会話していくうちに、色々なことに関心が出てくると思います。</p>
ゼミの進め方	<p>★詳細についてはゼミ紹介のスライド資料を参照してください。</p> <p>3 年生の間は、各自の問題関心を踏まえて久保庭が選んできた短い文献を全員で読み進めます。その上でいくつかのグループに分かれ、みんなでホワイトボードに自由に「落書き」をしながら「問い」を立て、それをゼミ全体で共有し、あーでもない、こーでもないというじっくり議論しながらゼミを進めていくことを基本にしています (地味に見えますがとても面白い作業です)。また、年間を通して、現在関心を持っている話題 (時事問題から趣味に関することなど何でも可) を各々持ち寄って自由に議論する時間を時々設けています。</p> <p>夏休みには合宿を行います。「国際法の現場」を肌で感じてくるために、昨年は北海道 (アイヌの聖地) へ、今年は沖縄 / 琉球 (八重山諸島) に行きました。ゼミ生の関心にもよりますが、国内の世界遺産の見学などに行っても良いかと思っています。</p> <p>全体として、ゼミの仲間や教員と「議論」や「対話」をしながら考えを深めていく、というプロセスを大事にしたいと思っています。こういった時間は、大学という場所以外ではなかなか得られない貴重なもので、何よりとても楽しいものです。</p>
留意事項 (Requirement など)	発足 3 年目のゼミです。一緒に試行錯誤しながらゼミを作っていきます。
ゼミ履修に望ましい科	ゼミ履修と並行する形で構いませんので、「国際理解と法・政治」「国

目	際人権保障論」「国際機構論」「国際関係論」などの関連科目の履修を勧めます。
定員	10名程度
選抜を行う必要性が生じたときの方法	志望理由書の提出
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ所属決定後に、先輩たちも交えて顔合わせの会合を開きましょう。詳細は追ってお知らせします。
代表的な卒業論文のテーマ	基本的に何らかの形で法と結びつけられる問題であればどのようなテーマでも可です。以下は実際に先輩たちが取り組んできたテーマの一例です。 自由と幸福の関係について／女性兵士は男女平等の象徴か？／動物実験、肉食と動物の権利／スポーツとナショナリズム／法は芸能活動にどう関わるべきか？／ルッキズムとの付き合い方／少数言語の保護と継承／表現活動とポリティカル・コレクトネス／ブラック校則と子どもの権利／歴史認識問題と法解釈 etc...
所属ゼミ生(先輩)からの一言	<p>★詳細についてはゼミ紹介のスライド資料を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・久保庭ゼミの特徴は、ゼミ生同士で議論する時間がたくさんあることだと思います。大学で過ごす中で誰かと集中して1つの話題を議論することは貴重な体験です。私はジェンダーをテーマに卒論を執筆していますが、話のできる仲間がいることで、行き詰まった時もお互い助け合っていていて感じています。「国際法」と聞くとイメージがつかなくて大変そうと感じるかもしれませんが、国際法は意外とどんなテーマにも繋がる面白い分野です。話をするのが好きな人にはとてもおすすめのゼミです！（2022年度1期生） ・英語教職を履修しています。社会問題に精通した英語教師を目指し、このゼミに入りました。ゼミではジェンダー問題や人権保障に関することなど、社会問題について幅広く議論しています。答えのない問いに対して議論することは簡単ではありませんが、ゼミメンバーの意見に毎回たくさんの刺激を受けています（2023年度2期生） ・先輩方の真面目な雰囲気と先生の人柄に惹かれて、このゼミを志望しました。これまでのゼミ活動を通じて感じたのは、実は日常生活の中に、ちょっと立ち止まって考えるべき（社会）問題が潜んでいる、ということです。様々な考えがある中で、その問題に対する答えを探し出すのは難しいですが、一生懸命考えた分やりがいがあります。毎週同じ仲間たちと集合し、言葉を交わして議論する…大学生ならではの貴重な時間を味わうことができるゼミだと思います（2024年度3期生）

担当者名	小島 克巳 (こじま かつみ)
e-mail アドレス	kkojima@bunkyo.ac.jp
研究室	3503
出講日	原則、月・水・木
ゼミの開講時間	3年生：木曜 4 限、4年生：木曜 5 限
担当科目	エアラインビジネス論、エアラインサービス論、観光交通論、テーマパーク事業論など
研究室を訪問できる時間帯	出講日 (月・水・木) の昼休みを中心に訪問時間を設ける予定です。日程等の詳細は別途お知らせします。
ゼミのテーマ	交通事業や交通政策に関する研究
ゼミの内容・メッセージ	<u>交通事業 (航空・鉄道・高速バス・クルーズ船等)、交通インフラ (空港・道路・港湾等)、国内外の交通政策を主な研究対象とします。この他、新型コロナ、観光振興、環境問題、地方交通など、交通分野の横断的なテーマについても取り上げます。</u>
ゼミの進め方	3 年春：交通事業や交通政策に関するテキストや文献を輪読し、交通に関する基礎知識を習得します。成田空港やゼミ旅行訪問先の事前学習を行います。 3 年秋：春学期の学習やゼミ旅行を踏まえ、グループワークを中心とした調査研究を行います。また、学期末までに各自の卒業論文のテーマを決定します。 4 年春：卒業論文の作成に向けて研究計画の作成や文献収集などを行います。ゼミ内で数回の中間報告会を実施します。 4 年秋：卒業論文の作成を進めます。ゼミ内で数回の中間報告会と最終報告会を実施します。 学外活動 (定例のもの)： 3 年春：成田空港と周辺施設 (空と大地の歴史館等) の見学 3 年夏休み：ゼミ旅行 (海外の場合もあり) 3 年秋：JAL 安全啓発センターと関連施設の見学 (羽田地区)
留意事項 (Requirement など)	・卒業論文のテーマには何かしら交通と関係するテーマを選択してもらいますので、 <u>入ゼミ希望者には交通分野への関心や問題意識があることが最低限求められます。</u> ・輪読テキスト代や学外活動の交通宿泊費など、ゼミ活動に際して一定の費用が発生します。
ゼミ履修に望ましい科目	観光交通論、エアラインビジネス論、エアラインサービス論
定員	10 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	希望調査票の内容と個人面接により選考します。選考に際しては「ゼミの志望動機」や「ゼミへの貢献期待度」を重視します。
ゼミ受入決定者への指示	受入決定者に別途連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	「成田国際空港における国際航空貨物量増加策に関する考察—貨物ハブ空港に向けた成田国際空港の将来性—」 「鉄道会社とアニメーション作品のコラボレーションについて」 「ローカル線の廃線と持続可能な公共交通～JR 芸備線の事例から考える～」 「地方空港における二次交通の整備と課題」 「鉄道のバリアフリーはなぜ遅れているのか」
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	・小島ゼミでは、航空や鉄道、地域の交通問題など幅広い分野について学ぶ事ができます。ゼミ生が発表をする機会もあり、発表を通して意見を交換し、自分が知らなかった情報や考え方について共有をす

ることで理解を深めていくことができます。

・航空や鉄道、クルーズ船と様々な交通に興味があるゼミ生がほとんどのため、将来に向かって共に頑張ることができます。将来、交通関係に就職したいなど思っている人は是非小島ゼミをおすすめします。

・優しくて学生思いの先生をはじめ、個性豊かな学生が集まる笑顔溢れるゼミです。交通に興味のある方は是非小島ゼミへ。

担当者名	佐々木 優 (ささき すぐる)
e-mail アドレス	s_sasaki@bunkyo.ac.jp
研究室	3418
出講日	月・水・金曜日
ゼミの開講時間	金曜 4・5 限
担当科目	春学期：発展途上国社会経済論 秋学期：国際理解と社会・経済、グローバル経済論、世界経済の現状と課題
研究室を訪問できる時間帯	日時を調整しますので、事前にメールでご連絡ください。
ゼミのテーマ	「変化する世界とどのように向き合い、どのように関わっていくか」を考える
ゼミの内容・メッセージ	経済のグローバル化は、私たちに豊かな生活をもたらしましたが、世界各地で貧困や紛争、教育・医療の欠如、環境破壊、食料危機、紛争など深刻な課題を引き起こしています。 ゼミでは、経済やビジネスをキーワードにしつつ、グローバルな課題について興味をもち、「当たり前」を疑うことからスタートします。ただ、“世界を変える！”と大それたことを言うつもりはありません（世界は良くも悪くも勝手に変化していきます…）。 しかし、「変化する世界&その世界が抱える課題と、どのように向き合い、どのように関わっていくか」を考えることはできます。ともに学び、ともに考え、ともに楽しみましょう！
ゼミの進め方	3年次は【文献輪読・グループワーク】 の2本柱で進めますが、細かい内容は皆さんと相談して決める予定です。 ・文献講読：選定した文献について輪読・ディスカッションを通じて、グローバルな課題への理解を深めます（文献は応相談）。 ・グループワーク：SDGsをベースに社会課題に関する「グループワーク＝自身の問題意識の発見」を実践します。 4年次は【個別発表】 を中心に進める予定です。 ・自身の研究テーマや関連する文献の紹介とゼミ内での議論・考察を行います。状況次第では3年と合同で行うことも検討しています。 3・4年の夏 or 春休み を利用して、国内でゼミ合宿やフィールドワーク（農業体験や実地調査等：自己負担）の実施も検討しています。
留意事項 (Requirement など)	このゼミの主役は「皆さん」です。 経済 or ビジネスに少しでも関心があり、積極的に発言・議論・行動できることが求められます。 出来る限り、 応募前に面談・相談されることを推奨 します。
ゼミ履修に望ましい科目	必須ではありませんが、「国際理解と社会・経済」「グローバル経済論」「世界経済の現状と課題」のいずれかは履修してください（3年次以降でもOK）。
定員	12名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	志望理由書（および状況に応じて面談）を行い、ゼミとの相性や積極性を判断します。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ決定後に顔合わせ会を行います（詳細は決定後にご連絡）。
代表的な卒業論文のテーマ	【前任校のゼミ生よりキーワードを抜粋】※研究室に卒論アリ 食料危機×食品ロス、アフリカ×人間の安全保障、行動経済学、北欧の教育システム、ヤングケアラー、男女間の所得格差、フェアトレード、第四次産業革命(IT活用)、ご当地マスコット、テーマパークの経営学、オーバーツーリズム、動物の殺処分、など

所属ゼミ生(先輩)からの一言	
----------------	--

担当者名	清水麻帆
e-mail アドレス	mamizu31@bunkyo.ac.jp
研究室	3516
出講日	水・木・金
ゼミの開講時間	金 4・5 限
担当科目	【学部】 国際観光論・観光資源論・観光政策論など 【大学院】 国際ツーリズム特論・観光行動論・国際学総論など
研究室を訪問できる時間帯	出校日のお昼休みとしますが、事前にメールでアポイントを取ってください。 *別途、ゼミ説明会を実施します。詳細はグーグルドライブの資料を参照してください。
ゼミのテーマ	○研究・テーマ ・コンテンツツーリズム ・文化観光まちづくり（カルチュラルツーリズム） ・コンテンツによる地域活性化・地域ブランディング形成 ・文化による地域活性化・地域ブランディング形成 ・都市の維持可能な発展 ○キーワード ポップカルチャー・メディアコンテンツ（ゲーム、eスポーツ、マンガ、アニメ、音楽、映画、ドラマ、小説）・食文化・スケートボード・ファッション・持続可能な発展・空き家再生・フィールドワーク
ゼミの内容・メッセージ	関心のある（趣味などの得意な）分野を活かして、実際に地域活性化の企画や政策提案を考えて実践に挑戦します。自分で考えた企画を実践・実現してみたい人や企画を考えることが好きな人、実際に地域課題解決に貢献したい人などにおすすめです。フィールドワークや研修旅行なども実施します。 *研修旅行は任意
ゼミの進め方	【3年次】 プロジェクト企画・提案という経験 ①地域やコミュニティの課題を発見し（フィールドワーク込み） ②解決のための企画プロジェクトをグループで考え ③実際に実践（動かします） 《現・3年生の進行中プロジェクト》 + SDGs 企画「果実酒」と「ジェラート」商品開発（廃棄物使用） + 「関東一のテントサウナの聖地へ」政策提案（サウナ好きが企画） + 「ナイトエコノミー」政策提案（自治体連携）など ・来年度に向けたプロジェクトも企画中 + ファッション SDGs 系・情報発信（メディア）系 *過去のゼミ活動は、グーグルドライブを参照 【4年生】 卒論執筆 ・テーマは自由（下記参照）
留意事項 (Requirement など)	行政や地域の人、グループの仲間と一緒に、主体的・積極的に取り組み、協力して活動できる人を希望します。任意の研修旅行は自己負担ですので、留意してください。
ゼミ履修に望ましい科目	観光政策論・観光資源論・特殊講義（コンテンツツーリズム論） *すべて春学期開講
定員	10名程度（とするが、明確には決めていない）
選抜を行う必要性が生じたときの方法	基本的には、積極性やこれまでの学習態度などで判断し、必要に応じて面談を実施する場合があります。
ゼミ受入決定者への指示	特にありませんが、事前にお知らせがあれば、別途連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	これまで、音楽・アニメ・出版・eスポーツ・コンテンツ・ファッション・

<p>ーマ</p>	<p>食文化・観光に関わる卒論テーマが多いです。</p> <p><ファッション></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ファッション産業における SDGs への取り組みと若者の消費動向」 ・「日本における古着のファッション的価値の考察-消費・身体・メディアの3つの視座からの分析-」など他 <p><メディア・コンテンツ（アニメや音楽、ゲーム、eスポーツなど）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域振興におけるeスポーツの可能性」 ・「日本のeスポーツ選手におけるセカンドキャリア問題について」 ・「音楽イベントを活用した日本の地域活性化のあり方と今後の展望」 ・「出身地ライブによる観光振興と地域活性化」 ・「音楽フェスによる地域活性化の課題と可能性」 ・「沼津市でのコンテンツツーリズムを活用した景観保存についての検討」 ・「オタクの一般化-『推し』が生み出す共感力」 ・「韓国コンテンツとファンの変容」 ・「なぜ韓国ドラマは人気が高いのか-日本ドラマ制作への提案-」 ・「現代に求められるアイドル像について」 ・「日本の映画史とプロモーション方法について」 ・「デジタル媒体の現代で旅行雑誌の在り方についての研究」 ・「若者の SNS 映え意識による美術館運営の今後について」など他 <p><食文化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ワインバレー形成による6次産業の発展の可能性」 ・「住民協働によるシティプロモーションの実践-足立区をイメージしたクラフトビール製造活動を事例に-」など他 <p><観光・その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ホテルによる地域創生-NIPPONIA とホテル講の事例から-」 ・「東京ディズニーリゾートにおける集客率・満足度の要因についての検討 アニバーサリー・イベントの考察」 ・「日本プロ野球における女性新規ファン獲得のための戦略-ヤクルトスワローズを事例にして-」など他
<p>所属ゼミ生（先輩）からの一言</p>	<p>現3年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「清水先生のゼミは自分たちでやりたいことを一から考え、実行できるのでとても身になります！共同作業のおかげで知らない人ばかりだったゼミも今では楽しい時間です！」 ・「地域創生に向けた商品開発を通じて、互いに協力しながらコミュニケーション能力を養うことで主体性が高まります」 ・「先生の癖は強いけど、良いゼミだと思います」 ・「ゼミでは、目的をもつ活動ができます。企画の立案から形にするまで携わるという大変やりがいのある経験ができると思います」 ・「とても自由なゼミで地域を盛り上げるためのイベント開催や商品開発など自分の好きな事ができるゼミです！」 ・「清水ゼミでは、商品開発やイベントなど、自分の好きなことや気になることに関して企画書を立てて、物事を1から作り上げる経験ができます。企画を立てるのは思っていたより難しくつまづくこともあります。友達と協力してよりよい企画作りに励むことはこの先なかなかできない経験だと思っています。企画を考えることやクリエイティブなことが好きな方、ぜひ清水ゼミへ！！お待ちしております！」 <p>*4年生のメッセージはグーグルドライブの資料参照。</p>

担当者名	菅原周一
e-mail アドレス	suga8216@bunkyo.ac.jp
研究室	3522
出講日	原則として、月、水、木
ゼミの開講時間	木曜 4 限 (3 年生)、5 限 (4 年生)。ただし、3、4 年生合同のゼミや勉強会を開催することが多く、4、5 限はゼミ時間として確保をお願いしています。
担当科目	新入生ゼミ (1)、応用ゼミ (3)、日本経済論 (3)、国際観光と企業分析 (3)、ファイナンス論 (4)
研究室を訪問できる時間帯	原則として、毎週、月 (2 限、昼休み、4 限)、水 (2 限、昼休み)、木 (2 限、昼休み、3 限) ですが、ゼミ説明会を順次開催しているので、研究室訪問を希望されたい方は、上記メールアドレスに必ず連絡をして、アポを取るようして下さい。(事前予約された方を優先します。)
ゼミのテーマ	2 つのテーマを中心にゼミ活動します。1 つ目のテーマは、企業分析で、企業の将来性や社会貢献度 (SDGs)、魅力度を分析、評価します。2 つ目のテーマは、社会や企業が抱える課題を見つけ、解決に向けた検討、提案を行います。(最終的なテーマは、ゼミ生の話し合いにより決定します。グループワークになります。)
ゼミの内容・メッセージ	菅原ゼミでは、上記のような活動を通して、4 年間の集大成に相応しい成果をまとめるとともに、並行して、社会人としての基礎力、応用力を身に付けることができます。ゼミ活動を通して、有意義で充実した学生生活を送ることができるように努めます。
ゼミの進め方	<p>3 年生の春・秋学期では、上記 2 つのテーマを中心に活動を行います (1 人で 2 つのテーマを検討して頂きます)。</p> <p>1 つ目のテーマは企業分析です。具体的には、企業の将来性や社会貢献度 (SDGs)、魅力度を分析、評価を各自で行い、その結果を全員で共有します。前後期 30 回のゼミで、1 人数社程度の企業を分析するので、最後には全体で 100 社を超える企業を分析することになります。この作業を通して、1 人 1 人の視野を広げ、いろいろな企業を見る目や就活に必要な企業分析の方法を知ることができます。</p> <p>2 つ目のテーマは社会や企業が抱える課題を見つけ、解決に向けた検討、提案を行います。検討するテーマは、ゼミのメンバーで相談した複数のテーマから、自分に関わりたいテーマを選び、数人のグループで検討、提案して頂きます。</p> <p>4 年生の春学期からは 3 年生のゼミ活動の内容やこれまでの学びの中から生まれた問題意識 (社会課題など) を題材として卒業研究に取り組んでいただきます。具体的には、検討テーマ、社会的意義について、先行研究の調査を進めながら検討を行い、次に現状把握、問題点の整理、仮説の設定などを行います。最後に仮説の検証や結論、提案などをまとめて、パワーポイントの資料を作成して頂きます。秋学期では、春学期に検討した内容を再整理して、論文の執筆に入り、12 月末を目標に卒業論文を完成させます。</p>
留意事項 (Requirement など)	ゼミ活動に原則として必ず参加すること、協調的、積極的であることが必要です。海外ゼミ合宿 (ハワイで実施予定) も原則として全員参加して頂きます。その他、ホテル合宿なども実施予定です。
ゼミ履修に望ましい科目	特にありません。
定員	16 名程度
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接と書類審査

ゼミ受入決定者への指示	できるだけ早く（12月中）個別に面接を行うとともに、オリエンテーションを行います。
代表的な卒業論文のテーマ	各自で興味を持った企業・業界に関する調査・実証分析、将来性に関する研究が中心で、「アイデンティティの形成とファッション行動」、「これからの観光産業の在り方 ～ポストコロナを踏まえて～」、「日本における新しいLCC戦略の提案」、「ハワイにおける観光業の可能性と限界」、「ホスピタリティの源流と可能性」、「企業における従業員満足と顧客満足の関係性」、「若者の長生きリスクとリスクヘッジのための提言」など
所属ゼミ生（先輩）からの一言	菅原ゼミナールは、学びと楽しみを両立させたい方におすすめなゼミです。観光業をはじめとする幅広い企業の分析を通じて、実践的なビジネススキルを身につけられます。またそれだけでなく、TOEICやSPIの勉強サポートも充実しています。企業の戦略や求める人物像などを研究することで、面接での説得力を高めることができます！また、サブプロジェクトとしてサイト運営やボランティア活動など、自分の興味を追求するチャンスもあります。ゼミではクリスマスパーティーやBBQ、ハワイでの夏合宿など楽しいイベントが豊富にあり、ゼミ生同士の親睦を深める機会がたくさんです！さらに、優しい先生と信頼できる先輩が親身に相談に乗ってくれるので、就職活動に不安がある方でも安心です。観光学科と理解学科の枠を超えた交流もあり、学科問わず大歓迎です。菅原ゼミナールで、充実した大学生活を送りましょう！

担当者名	杉浦功一
e-mail アドレス	ksugiura@bunkyo.ac.jp
研究室	3419
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木曜 4 限 (3 年生)、木曜 5 限 (4 年生)
担当科目	【春学期】政治学、平和学、国際理解と法・政治 (政治領域)、国際学入門、新入生ゼミナール、専門ゼミナール 【秋学期】政治学、国際社会の現状と課題、現代世界と国家、NPO・ボランティアの理論、基礎ゼミナール、専門ゼミナール
研究室を訪問できる時間帯	月曜昼休みと 4 限、水曜 2 限と昼休み、木曜昼休み (事前のメール予約があると確実です)
ゼミのテーマ	世界の平和と政治について考える
ゼミの内容・メッセージ	本ゼミは、政治学、国際関係論、平和学のアプローチから、世界の平和と政治について理解を深め、各人が関心をもつ問題について研究を進め、卒業論文に結実させることを目標とします。本ゼミは、広く平和や政治に関わるテーマを扱います。たとえば、日本の政治・外交、外国の政治・外交、SDGs、貧困、紛争・戦争、民主主義・人権、地球環境、ジェンダー、国際協力、国連、NPO/NGO、移民・難民・外国人労働者、教育、地域おこしなど、国内外の平和や政治に関わるテーマが広く対象となります。
ゼミの進め方	ゼミでは、まず、報告の方法やレポートの書き方を説明します。その上で、文献の輪読などを通じて、政治学、国際関係論、平和学の研究アプローチを身に着け、世界が抱えるいろいろな問題に触れます。同時に、自ら関心のある問題を探し、報告し討論を行います。その際には、インターネットの活用や文献・映像検索など、情報の収集についても学びます。映像も教材として積極的に活用します。ゼミでは 3・4 年生の交流も行います。また、国際協力や政治にかかわるイベントへの参加や調査に行くこともあります。長期休暇期間中には、特別ゼミを学外でを行う予定です (2024 年は 8 月に江ノ島日帰りで実施)。
留意事項 (Requirement など)	ゼミの活動への積極的な参加とともに、多くの資料を集めて分析する意欲が求められます。また、2023 年度から始まったゼミなので、これから参加者ともに作り上げていくこととなります。
ゼミ履修に望ましい科目	必須でなく今後の受講でも構いませんが、「政治学」「国際社会の現状と課題」「NPO とボランティアの理論」「国際理解と法・政治」「平和学」「現代世界と国家」等、私の担当科目のいずれか。
定員	10 名程度
選抜を行う必要性が生じたときの方法	志望理由書の提出による選抜。面談を行うこともあります。
ゼミ受入決定者への指示	決定後、顔合わせ等を行います。
代表的な卒業論文のテーマ	2023 年度から開講なので卒業生がいませんが、現 4 年生は、流通と道路行政、生物多様性問題、食糧安全保障、オーストラリアの移民政策をテーマにしています。
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	「自分のペースで自分の好きなテーマを勉強できるゼミです！」

担当者名	杉山富士雄
e-mail アドレス	sugiyama@bunkyo.ac.jp
研究室	3416
出講日	火曜日、水曜日、金曜日
ゼミの開講時間	金曜日 4 限（3 年次）、金曜日 5 限（4 年次）変更の可能性もあり。
担当科目	産業組織論、企業の競争戦略の経済学、食と農の経済学、観光経済学、経済学
研究室を訪問できる時間帯	火曜日 4、5 限、金曜日 3 限、4 限、5 限
ゼミのテーマ	イノベーション・経済成長と企業組織の経済学 ～コーヒーと回転寿司などの事例研究～
ゼミの内容・メッセージ	卒論で研究できるテーマは以下の通り。但し観光業界全般も可能。 B 級グルメと地域活性化、JR の駅ナカ施設と他事業への進出、 ビーン・ツー・バーのチョコ専門店とサード・ウェイブ・コーヒー、 スタバとコメダ珈琲の秘密、コンビニコーヒーの衝撃的安さ、 居酒屋の苦戦と業態転換、コロナ禍の外食産業の苦戦、 ワイン・ツーリズム（仏・伊・米国）、為替レート変動と観光業界、 スシローとくら寿司の業界内競争、グルメ回転寿司の製品差別化、 日本の農政と土地利用型農業、江戸の 4 大屋台グルメと日本型外食
ゼミの進め方	学生の自主的な研究を重視。ゼミの発表は、できるだけ現場調査し、 文献データを調べ再確認。その上で改善提案を検討する。
留意事項 （Requirement など）	最近ではゼミで学外調査が実施できなかったが、2017 年から 2020 年に 石和温泉と桔梗屋工場、横須賀カレーとペリー記念公園、宇都宮餃子 と大谷石の採掘場、富岡製糸場と長瀬、静岡市登呂遺跡と富士山静岡 空港などの学外調査。2025 年は学外調査を実施予定。
ゼミ履修に望ましい科目	私が担当する上記科目
定員	10名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	書類審査と面接
ゼミ受入決定者への指示	3 年次ゼミが始まる 4 月前に、飯田泰之「地域再生の失敗学」光文社 新書を読むこと。
代表的な卒業論文のテーマ	ペリー来航とみなとみらい地区の歴史（17 年）、富岡製糸場（17 年）、 湯河原温泉街の活性化（2017 年）、ベイスターズの経営再生（18 年）、 中国人爆買い終焉（2018 年）、真珠養殖の歴史と田崎真珠（18 年）、 B 級グルメ（宇都宮餃子、生馬麵、富士吉田うどん）と地域活性化、 越後湯沢の温泉街活性化（19 年）、横浜ハンマーヘッド（20 年）、タ ピオカミルクティーのブーム終焉（20 年）、日本人とラーメン（20 年）、 ケンタッキーフライドチキン 500 円ランチの衝撃（20 年）。みなとみ らい・鎌倉観光、北千住の昭和カフェ、コロナ禍のホテル宴会需要、 無印カフェの社会貢献、池田町ワイナリー巡り、2024 年は「JR の 非鉄道事業」、「テーマパークとインバウンド」など内容多彩。

担当者名	孫 美幸 (そん みへん)
e-mail アドレス	sonmihen@bunkyo.ac.jp
研究室	3521
出講日	火・水・木
ゼミの開講時間	木曜 4 限・5 限
担当科目	新入生ゼミ、専門ゼミ、国際学入門、多文化社会と共生、開発教育論、国際学 A、国際理解とコミュニケーション、多文化交流特論 (大学院科目)
研究室を訪問できる時間帯	上級生と直接話せる機会を設定し、専門ゼミの時間に見学可能な日を作ります。詳しくは、Google Drive にある予定表を見てください。
ゼミのテーマ	ホリスティックアプローチを通して、平和な未来、多文化共生社会を描く。～自分の将来につながる、共生のスキルを身につけよう！
ゼミの内容・メッセージ	<p>「ホリスティック」というコンセプトには、「つながり」「包括性」「バランス」の 3 つの特質があります。多様な背景をもつマイノリティの人々に寄り添いながら、人が人を支え育み、共に成長する社会や教育のあり方を考えていきます。そして、そのような社会を目指して、自分自身の思いを伝え、他者の意見を受け止め、自身の具体的な活動や企画につなげられる「深い変容」を伴う共生のスキルを身につけましょう。</p> <p>このゼミでは、ゼミ生の卒論テーマを見ればわかるように、それぞれの関心領域から、多文化共生社会や平和な未来を考えていきます。担当者による発表やディスカッションを行い、関連するゲストとの交流、海外の学生との交流もしながら、関心テーマを深め、自分の卒業後の進路や活動へとつなげていきます。</p>
ゼミの進め方	<p>【3 年生春学期】 ホリスティックアプローチに関わるゲストとの交流をしながら、フィールドに出て、体験的な活動を重ね、自分の関心テーマを探していきます。毎年集まってくるメンバーによりゲストも様々です。</p> <p>【3 年生秋学期】 自身の研究テーマを決め、卒業論文の基礎固めをしていきます。韓国や台湾の学生たちとのオンライン交流、ゲストとの交流やフィールドに出る機会を創って自分の将来像ともつなげていきます。</p> <p>【4 年生】 昨年度までの研究をもとに、卒業論文の執筆を行っていきます。また、卒業論文を自分の生き方の軸の一つとなるように整理していきます。</p> <p>【夏休みや学期中】 毎年ゼミ生の希望により異なります。この数年は海外との交流はオンラインで行い、国内（京都）で宿泊をともなったゼミ旅行とフィールドワークをしたり、関東近郊に日帰り異文化理解や多文化共生をテーマにした場所を訪れたりしました。</p>
留意事項 (Requirement など)	ゼミ活動として年間で行っているフィールドワーク（この数年は国内）について、自身の予定調整や経済的なこと（宿泊の場合は場所により数万円）を準備すること。
ゼミ履修に望ましい科目	異文化理解や多文化共生社会をテーマにした科目群。
定員	10 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	書類と面接で選抜します。関心のあるテーマとの合致性やゼミ活動への参加意欲などで判断します。
ゼミ受入決定者への指	ゼミ受入れ決定後、3・4 年生と一緒に顔合せ会を行います。その際、

示	4月までにやっておくことなど予定をお話します。
代表的な卒業論文のテーマ	<p>【今年度4年生が取り組んでいるテーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本における犬猫の殺処分をゼロにするには ・流行の循環性からみる持続可能なファッションの形態提案 ・接客業を通じて考える思いやりのあるコミュニケーション ・社会問題解決における音楽の可能性 ・メディアによる痩せ信仰の影響と摂食障害 ・HSPの強みを活かした～効果的なストレス解消法の考察 ・LGBTQ+学生にとって最適な大学環境実現にむけて ・物語における『悪』の考察～映画に登場する悪役の解釈と意味 ・珈琲と気分～今後のカフェ展望への提案 ・幼少期のステレオタイプについて～ディズニー作品から考える ・日本における外国人労働者問題の現状と解決に向けた提案 ・日本の民泊ビジネスにおける現状と課題、展望 ・災害医療での赤十字の役割 ・環境問題に対する行動意識を高めるためには
所属ゼミ生(先輩)からの一言	<ul style="list-style-type: none"> ・今学期のゼミ活動を振り返って自分の成長につながったこととして、中国ルーツを持つメンバーとの関わりを通じて異文化理解を深めることができた経験です。ゼミ活動の一環として、フィールドワークやグループディスカッションを行いました。彼らとの会話を通じて中国の文化や価値観について多くのことを学びました。ディスカッションや共同作業を通じて、異なる視点や考え方に触れることができました。(理解3年阿久津空) ・台湾フェスでは、異文化の料理について考えることができました。他国の料理を通して思ったことは、食を通して他国の文化を受け入れる、理解することが会場のみならずできていました。実際のコミュニケーションでは、国籍も言語も文化も違う相手とは関わりにくいと感じてしまう人もいると思います。しかし、他国の食文化の理解を人々は進んで行うことができると感じます。食は人と人をつなぐものであり、人間間の壁をなくし、異文化理解を無意識のように行える手段だと感じました。このようなイベントを通して、様々な国の食文化の色を見られるのはすごく素敵な活動だと感じました。孫ゼミのメンバーは個性あふれる人たちばかりなのでいろんな価値観や考えが楽しめそうで今後の活動もわくわくしています。(理解3年中村美琴)

担当者名	種村 聡子 (たねむら さとこ)
e-mail アドレス	stane@bunkyo.ac.jp
研究室	3504
出講日	火・水・金
ゼミの開講時間	金 4 限目 (3 年生)、金 5 限目 (4 年生)。3 年生と 4 年生合同の縦ゼミを半期に 2 回程度実施します。
担当科目	ホスピタリティサービス論、国際観光とホスピタリティ、国際人材マネジメント論、ホスピタリティ演習 C (エアライン) など
研究室を訪問できる時間帯	メールにてご連絡ください。
ゼミのテーマ	ホスピタリティ・マネジメント
ゼミの内容・メッセージ	ゼミでは、ホスピタリティの概念を経営に取り入れている企業や組織に焦点を当て、顧客満足と従業員満足、従業員の行動と管理、人材育成について学びます。例えば、従業員のホスピタリティ行動が顧客に与える影響、人材育成の際に必要な支援は何かなどを検討します。文献で得た知識が実社会でどのように生かされているのかをアルバイト先やフィールドワークで確認し、レポートにまとめてもらい、発表します。主に企業活動を取り上げますが、ホスピタリティの概念を学ぶことは、広く社会生活でも役に立つと思います。周囲の人と発展的な関係を築いていくための過程を探求したい人は、ぜひご検討ください。
ゼミの進め方	<p>【3 年春学期】ホスピタリティ・マネジメントの教科書を輪読し、ホスピタリティに関する基礎知識を得ます。並行して、チームに分かれてプロジェクトを進めます。プロジェクトでは、チームごとに企業を選び、その企業が提供するサービス (商品) を調査したうえで、顧客が体験する経験を可視化したカスタマージャーニーマップを作成します。</p> <p>【3 年秋学期】ホスピタリティに関する論文を読み、議論します。チームプロジェクトでは、従業員と顧客の行動を調査し、企業の課題と対応策を検討します。年度末には他大学との研究発表会を開催する予定です。</p> <p>【4 年春学期】卒業研究のテーマを決め、研究計画書を作成します。</p> <p>【4 年秋学期】卒業研究として、論文を執筆します。</p>
留意事項 (Requirement など)	夏休みの合宿 (2024 年度はクアラルンプール) やフィールドワーク (成田空港) を予定しているため、費用が必要です。合宿とフィールドワーク先はゼミ生の希望を聞いたうえで決定します。
ゼミ履修に望ましい科目	国際観光とホスピタリティ、ホスピタリティサービス論
定員	12 名 (施設見学のため)
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接と書類審査により決定します。
ゼミ受入決定者への指示	個別面接と顔合わせ会 (1 月末予定) を実施します。実施日時は別途連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	「旅館のおもてなしに関する研究—外国人観光客に対する接客」、「人に好感を持たせる第一印象」、「宿泊業界における人的ホスピタリティの重要性—顧客のニーズとデジタル化に対する意識調査から—」「非接触サービスにおける顧客満足への影響—飲食店での顧客満足向上—」「カスタマーハラスメントを受けた学生に

	対する企業の最善な事後対応の考察—学生が企業に対して望むものとは—」
所属ゼミ生(先輩)からの一言	種村ゼミはホスピタリティについて研究します。今年、エアライン、テーマパーク、旅行会社、食品、ファッションについて自分たちで調べて発表をしました。他には空港見学などの課外活動や縦ゼミ、他大学との交流会などもあります。ゼミ生は、女子が多いですがホスピタリティに興味のある男子も大歓迎です。時には厳しく、時には優しい種村先生です。

担当者名	千葉 克裕 (ちば かつひろ)
e-mail アドレス	ch1ba@bunkyo.ac.jp
研究室	3526
出講日	火 水 木
ゼミの開講時間	木4 (3年) 木5 (4年)
担当科目	上級リーディング, 多読多聴演習, 英語学概論, 心理言語学
研究室を訪問できる時間帯	今年度は在外研修中で大学には出校しないため、原則としてオンラインによる面談となります。メールで申し込んでください。
ゼミのテーマ	効果的に外国語を身につける (教える) にはどうすれば良いのか? — 第2言語習得理論の理解と学びの実践 —
ゼミの内容・メッセージ	第2言語習得に成功する人はなにが違うのでしょうか? この問いに答えるために、まずは 自分の英語力をしっかりと磨き 、そのプロセスを通して「なぜうまくいかないのか? どうしたら効率的に身につくのか?」、 第2言語習得の仕組みについて学び 、その気づきを生かして英語力を高める効果的な学び方や教えるための技術を身につけます。 また、読書が苦手な人のために文献を読むための読書法や思考の整理法 (マインドマップ) など「 学び方を学ぶ 」ことにも重点を置きます。将来の仕事にかかわらず、自分の好奇心に従って問を立て、調べ、まとめ、発表する力を養います。 高い英語力と根拠に基づき論理的に議論する能力を身につけ、「 将来英語を使って仕事をしたい人 」や「 理論に基づいた英語教育をしたい人 (教員志望) 」の参加をお待ちしています。 ”自ら学び、ものを考える人になろう!”
ゼミの進め方	3年春学期：基礎的研究力の育成 ・新しいノートの取り方(マインドマップ)を学び、新しい思考法を身につける ・本の読み方 (速読法) とまとめ方・発表の仕方を学ぶ ・新書をたくさん読みながら読書力と教養を蓄える ・語彙力と文法力を強化する (目標 TOEIC650 点) 3年秋学期：研究のためスキルアップ ・第2言語習得研究(SLA)の入門書を輪読しながら研究の方向性を模索する ・研究の方法を学ぶ (問いの立て方・文献検索の仕方・情報整理の方法など) ・先行研究論文のレビューとゼミ発表を通して議論する力を養う ・多読・音読・を通してスピーキング力を高める ・発音の矯正と長文読解力の養成 (目標 TOEIC700 点) 4年：卒業論文の執筆 ・自己の英語学習の気づきから研究テーマを決定し、卒業論文の作成に取り組む
留意事項 (Requirement など)	・事前の研究室訪問で十分な説明を受けるようにしてください。 ・夏休みのゼミ合宿(国内)と Mindmap@講座は 全員参加 でお願いします。
ゼミ履修に望ましい科目	英語学概論、心理言語学、英語表現、統計学など
募集人数の上限	10 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面接により決定します。
ゼミ受入決定者への指示	TOEIC を受験し(IP も可)、スコアを提出。 春休みは何でも良いので読書を楽しんでください。
代表的な卒業論文のテーマ	「多読学習の効果」「多読学習者の読解速度についての考察」「動機づけの原因帰属理論」「語彙学習における効果的な学習方略」「日本人の語用論的能力の育成」
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	千葉ゼミでは、学び方を学び、自立と自律ができるようになります。教育・英語・脳科学・思考、それぞれに研究に基づいた専門的な知識によって、英語をより良く学ぶ・教える、より効率良く思考するにはどうすれば良いかなど深く学ぶことができます。またその先の、自分でどう学び続けるか、自分をよくしていくかということを論文や書籍、マインドマップを活かした論理的思考によって学んできました。 さらに、質を大切にする千葉先生はただ教えるのではなく、私たち学生一人一人と対話し、必要に応じたアドバイスで、学生が主体的に学ぶことを助けてくれます。千葉ゼミでの2年間にわたる学びのおかげで、私の学習の興味や質は、圧倒的に広く深いものになりました。言語や英語に興味がある方、教員を目指している方、自分を見つめ直して深く学びたい方、ぜひ千葉ゼミと一緒に成長しましょう。

担当者名	塚田 穂高 (つかだ ほたか)
e-mail アドレス	hotaka@bunkyo.ac.jp
研究室	3415
出講日	火曜日・水曜日・金曜日
ゼミの開講時間	金曜 4 限 (3 年生)、金曜 5 限 (4 年生)
担当科目	【春学期】「宗教学」「文化人類学」「国際学 C」「現代世界と宗教」 「東洋思想と国際社会」など 【秋学期】「宗教学」「文化人類学」「宗教人類学」など
研究室を訪問できる時間帯	事前にメールで連絡してください、個別に面談をします
ゼミのテーマ	世界と日本の「宗教」文化を中心に、文化と社会とのさまざまな関わり方について広く勉強し、研究していくことで、現代社会のさまざまな問題についての理解力・リテラシーを養う
ゼミの内容・メッセージ	広い意味での「宗教」になんとかく関わりそうかな? というものを中心にしつつ、人物、地域、歴史、文化、思想、運動、民俗、儀礼、メディア、教育、ポップカルチャーなど、幅広く取り扱っていきましょうというゼミです (まだできたばかりです)。 とにかく、宗教学・社会学・文化研究などに関わる、きちんとした卒業論文=「よい研究」の完成を目指すことが大前提です。ここでいう「よい研究」とは、「オリジナルのデータないし作業に基づき、研究史に意義ある知見を加えたもの」のことです。その点については、厳しく求めていきます。調べる努力が必要です。
ゼミの進め方	基本的には毎回演習形式で、ゼミ生のだれかがプレゼンテーションを行うかたちです。課題文献類は全員が読んでおくことが必須で、それに基づく発言・質問が求められます。発表者は、レジュメ資料を作成してそれに基づいて発表し、研究を進める観点からコメント・分析を行います。そして、ゼミ生の間で議論を行います。これらの作業を通じて、宗教学・社会学・文化研究領域の研究の進め方をそれぞれ身につけ、各自の卒業論文執筆に向かっていきます。
留意事項 (Requirement など)	文献調査・フィールド調査に基づいてしっかりした卒業論文を書き上げるには、その過程である程度の費用もかかりますので、そのつもりでいてください。 調査旅行、合宿、訪問見学なども適宜行っていきます。
ゼミ履修に望ましい科目	必須というわけではないですが、「宗教学」「文化人類学」などの基礎的な科目で、この分野の面白さを少しでも感じてほしいと思います。他の先生の「社会学」系科目もオススメです。 「宗教」については、「宗教学」→「宗教人類学」→「現代世界と宗教」(3 年次) と積み重ねて履修すると、この領域についてのイメージが付きやすいです。
定員	10 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	面談内容、テーマ・関心の方向性の適性、ゼミへの参加意欲などから決定します。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ決定後に連絡して、オリエンテーションなどを行う予定です。
代表的な卒業論文のテーマ	まだできたばかりのゼミなので書き上げるのはこれからですが、現在のゼミ生は、「現代日本社会における宗教の公共性」「臨床宗教師とスピリチュアルケア」「ポップカルチャーにおける社会観」「ポケモンの世界観」などをテーマに、研究を進めています。 なお、担当教員がこれまで指導してきた卒業論文のテーマとしては以下のものがあるので、参考にしてください。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校道徳における「宗教的情操」教育の内容分析 ・ 大型ロックフェスと連携する地域 ・ 現代日本における御朱印ブーム ・ 宗教者が行う傾聴 ・ 少年マンガのラブコメ作品におけるジェンダー表象 ・ ロールプレイングゲームにおけるストーリー構造の研究 ・ 現代日本におけるキャンプブームについての一考察 ・ 高校「現代社会」教科書における「若者文化」記述の変遷 ・ 少年マンガにおける現代社会の「悪」の表象 ・ 高崎市国際交流協会における外国人生徒に向けた取り組み ・ 都市祭礼の持続可能性
<p>所属ゼミ生(先輩)からの一言</p>	<p>今後「宗教」についてまとめて学ぶ機会は無いだらうと思ひ、このゼミを選びました。毎回のゼミでは、初めて知ることばかりで面白いです！（国際観光学科・3年）</p> <p>できたばかりのゼミです。宗教に関するゼミと言われると想像しにくいのではないかと思います。研究のテーマは必ずしも宗教に関連しなくても問題ありません。皆さんが思うよりも自由なテーマを決めることができます。僕が選んだテーマも宗教に直接関連するものではありません。まだ少人数の状態です。より多くの方が本ゼミに来てくれることで、一緒にゼミを作りあげていきたいです！（国際理解学科・3年）</p>

担当者名	利根川 由奈
e-mail アドレス	cruela53@bunkyo.ac.jp
研究室	3529
出講日	火・水・金
ゼミの開講時間	金 4 (3年生)、金 5 (4年生)
担当科目	観光と交流、交流文化論 B、文化政策論、アートマネジメント論、地域開発とミュージアム、新入生ゼミ、応用演習、専門ゼミ (春) 交流文化論、基礎ゼミ、専門ゼミ、地域文化マネジメント特論 [院] (秋)
研究室を訪問できる時間帯	事前にメールでご連絡をお願いします。
ゼミのテーマ	文化のマネジメントを学ぶ・体験する・実践する
ゼミの内容・メッセージ	具体的なコンテンツや場所、美術作品を検討対象として、観光や交流文化、地域文化におけるそれらの位置づけや、社会におけるそれらの役割、文化のマネジメントなどについて考えたい方を歓迎します。私の守備範囲としては、美術史 (現代美術やミュージアム、展示を含む)・文化政策史 (主に 20 世紀～現代ヨーロッパ・アメリカ・日本)・表象文化論 (映画、MV、広告、ファッションなど) になります。 私はゼミ生のみなさんに、ゼミ生の意見や文献、実地体験によっていかに自分の考えを発展させ、現実的な着地点を見つけることができるかを学んでほしいと考えています。興味のあるトピックがあるけれど悩んでいる方がいましたら、ぜひ相談してください。
ゼミの進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ生による話題提供：担当者を決めて、簡単な話題提供をしてもらい、それをもとに全員でディスカッションします。 ・展覧会見学：ゼミ生で話し合い、行く場所を決めます。2021 年度は国立新美術館、THE TOKYO TOILET、2022 年度はスコットランド国立美術館展 (東京都美術館) に行きました。 ・アートマネジメント団体との協働：地域にアートマネジメントがどのように根付いているか、どのような活動をしているか、を実際に体験してほしいと考えています。アートアクセスあだち、東京都現代美術館との連携を考えています。
留意事項 (Requirement など)	<p>*利根川ゼミ志望の方には、「志望理由書」とこれまでの成績を提出していただきます。面談時にご持参ください。</p> <p>*利根川は 2023 年度いっぱい育休です。三井麻央先生に代講していただきます。2024 年度から利根川が復帰します。</p>
ゼミ履修に望ましい科目	「交流文化論」、「文化政策論」、「アートマネジメント論」
定員	11 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	個人面談・志望理由書・これまでの成績の総合評価で決定します。
ゼミ受入決定者への指示	決定後にご連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	建築 (西澤立衛と十和田市現代美術館)、ファッション (ストリート文化とファッション、シャネルの流行史) など
所属ゼミ生 (先輩) からの一言	「アットホームでみんな仲良いです！」(4 年生)「やりたいことがある人は、提案すればたいていやれます」(3 年生)「毎回ディスカッションの時間があるので疲れますが視野が広がります」(3 年生)

担当者名	中井治郎
e-mail アドレス	jiro@bunkyo.ac.jp
研究室	3531
出講日	火水金
ゼミの開講時間	金 4
担当科目	「社会学」、「観光社会学」、「消費者行動論」など
研究室を訪問できる時間帯	オフィスアワーは火 5、金 3 ★ゼミ説明会を別途開催します。参加方法・開催日時などは google ドライブの資料を参照してください（志望者は参加必須）。
ゼミのテーマ	「歴史的まちなみと観光の共存を考える」
ゼミの内容・メッセージ	「日本らしい」と感じられる歴史的なまちなみを有する地域では、現在、リノベーションされたレトロな古民家カフェやレンタル着物を着ての撮影など新たな視点から価値や楽しみ方を見出す動きも盛んです。しかし、一方でマナー違反や混雑などのオーバーツーリズムが問題となるなど課題が多いことも事実です。そこで本ゼミでは歴史的なまちなみを有する地域をフィールドに様々な角度から、古いものを「受け継ぐ」まちと新たに「楽しむ」ことの調和を模索したいと思います。
ゼミの進め方	【3年次】 ゼミ全体でひとつのフィールドを設定して、個人がそれぞれテーマを決めて、インタビューなどのフィールドワークを行い、各学期末に報告書を提出します。フィールドは歴史的まちなみの残る地域を想定しています（23年度は日光市、24年度は川越市）。全員参加のフィールドワーク（1泊～2泊ほど）は年に2回を予定していますが、フィールドは「ふと思えば自分でも行ける距離」に留意して設定します。 【4年次】 3年次に研究したテーマを踏まえて（場合によっては踏まなくてもOKです）、個人で卒論テーマを決めて研究と執筆を行います。
留意事項 (Requirement など)	フィールドワークに交通費と宿泊費が必要となります。 いずれも一回につき数千円～1万円前後になる見込みです。
ゼミ履修に望ましい科目	「観光社会学」
定員	10
選抜を行う必要性が生じたときの方法	ゼミ説明会での聞き取りや書類などにより審査します。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ受入れ決定後、顔合わせを行う予定です。
代表的な卒業論文のテーマ	「市町村合併が地域ブランドの展開に及ぼす影響～栃木県日光市を事例に」、「長野県はなぜ18年連続“移住したい県”に選ばれているのか」、「SNS映えの心理～スターバックスコーヒー・ジャパンのマーケティング戦略」、
所属ゼミ生（先輩）からの一言	「自分でテーマを選択しながら研究を進めていくため、まだゼミの研究テーマが決まっていない学生や、フィールドワークを行いながら観光地のリアルな声を聞きたい学生などにおすすめです」 「フィールドワークを通して観光地の現状や問題の深刻さを実際に自分の肌で感じることで、自分が何に対して興味があるのかを知ることができ、さらに興味のある事に対してとことん追求できるこのゼミでの経験はガクチカでも大きな強みになると思います」

担当者名	黛 陽子 (まゆずみ ようこ)
e-mail アドレス	mayuzumi@bunkyo.ac.jp
研究室	3525
出講日	火・水・木
ゼミの開講時間	木曜日 4 限 *4 年時は木曜 5 限ではなく 2 限に変更の可能性あり
担当科目	基礎ゼミ、生態学、観光とソーシャルビジネス、 国際観光とサステナブルデザイン、 インタープリテーション論(理論・応用)、情報デザイン特論(大学院)
研究室を訪問できる時間帯	火曜日 2 限とお昼休み、水曜日 2 限、木曜日は 1 限とお昼休み、 突然の訪問の場合は、予約した方が優先となり待っていただきます。 あらかじめメールで予約を取る方が確実に面談できます！
ゼミのテーマ	*バリ島でサステナブルなツーリズムと地域ビジネスづくり *ヘリテージ (地球の遺産) を次世代へ残すプロモーション *農業を主題としたルーラルツーリズムの学びと実践 *ヘリテージ・インタープリテーション (ガイド) の実践 「自ら知る・調べる→創造する→伝える→保護・保全への動機づけ を相手に与える」
ゼミの内容・メッセージ	地球と観光にやさしくエコなサステナブルツーリズムを主題として、 地域ビジネスと一緒に育てましょう！黛ゼミでは、観光地のヘリテージ (自然・伝統文化・文化遺産・生活慣習) に対し、地域社会に密着した ゼミ活動で学生自らが深く理解し、ビジネス活動やガイドツアー、 メディアで伝え、さらにそれを持続可能な形でまもっていくことを 実現することを目的とするゼミです。黛ゼミのフィールドはバリ島、 軽井沢、高山と多岐にわたりますが、 ゼミ活動を大きく占める内容は バリ島です。3 年夏休みにはゼミ生全員でバリ合宿に行きます。 合宿ではサステナブルな農村ビジネス研究の他に、バリ島現地の 大学生や外国人居住者と触れ合う異文化コミュニケーションの機会も 多く持ちます。つまりは、社会貢献ビジネス、今後の世の中を生きる ために必須のアントレプレナーシップを学びます！グループ活動が主 のため、ゼミ生同士の和を乱さない真面目で積極的な方、そして コミュニケーション機会が非常に多いのでこれを得意とする方にお 勧めします！
ゼミの進め方	[インタープリテーション理論]:ゼミ生は必修科目で講義で学ぶ *3 年時:サステナブルツーリズムの深い知見をバリ島学習を通じて 学ぶ。合宿・ヘリテージへの訪問とガイド実践 *4 年時:フィールド調査や実験を用いた卒業論文を書きます
留意事項 (Requirement など)	コミュニケーションを率先して行なうことが出来る、 体力のある 明るい学生さんをお待ちしています！学外活動では全員が参加必須 で、交通費や宿泊費が必要です(紙すき出店時のイベント地までの 交通費・軽井沢 2 万円・バリ島 18 万円約 10 泊・高山 2 万円など) 行事が多いので、予定をゼミ活動優先にできることが必要です！
ゼミ履修に望ましい科目	ゼミ活動では、実践を主とする為に、「 国際観光とサステナブル デザイン 」、「 インタープリテーション論(理論・応用) 」、は ゼミ生 全員必ず受講 。観光とソーシャルビジネスは受講が望ましい。
定員	10 名
選抜を行う必要性が生じたときの 方法	面接を実施する。(対面)
ゼミ受入決定者への指示	ゼミの先輩による顔合わせ会の実施。3 年直前の春休みに課題
代表的な卒業論文のテ	農村観光ビジネス研究・地場産業の商品開発とブランディング研究・

ーマ	伝統芸能の持続可能な観光研究・メディアツールの制作研究など
所属ゼミ生(先輩)からの一言	<p> 黛ゼミナールは、ひとつひとつの学びが深く、とても充実したゼミ活動を行なっています。ビジネス作り、伝統文化・自然や人との交流が好きな、積極的な学生におすすめしたいゼミナールです！1年を通して様々な課外活動が行われ、夏に行われるバリ合宿は、実際に現地の方との交流をすることで、観光だけでは分からない本当のバリを学ぶことができます。合宿によって自己課題を見つけることができ、その後のゼミナール活動に対してとても意欲を持って取り組むことができます。バリ合宿を終えた後、ゼミナールメンバーの絆はとても硬いものになります。 </p>

担当者名	本浜 秀彦（もとはま ひでひこ）
e-mail アドレス	motohama@bunkyo.ac.jp
研究室	3514
出講日	（春学期）月、火、水、木（秋学期）水、木
ゼミの開講時間	木4限、5限
担当科目	「日本研究 A」、「日本研究 B」、「国際理解と文化」、「比較文学」など
研究室を訪問できる時間帯	スケジュールは別途掲示（卒業制作作品を一部見てもらうため、個別面談ではなく、昼休み等の時間帯に開く説明会に参加してください。）
ゼミのテーマ	日本研究(ニッポンを映画制作という視覚文化の実践を通して考え、表現する)
ゼミの内容・メッセージ	<p>文学研究者のわたしが、専門ゼミを、映画制作を行う実践的なゼミに変えた理由は、①今はスマホでも映画制作が可能なこと、②YouTube世代の映像センスの高さ、③私が培ってきた「物語」分析のノウハウが映画制作に生かせると考えた一から。ゼミ生は、それぞれ自分の監督作品となる映画の企画を立て、脚本を書き、取材をし、撮影・編集を行って卒業制作を完成させ、その作品を学内上映して、卒業していきます。</p> <p>映像の学部や学科ではない、国際学部生が映画を撮る意義は、作品のテーマ設定。時代とどうシンクロし、現代日本が抱える問題（<u>生きづらい社会構造、格差、貧困、労働、少子高齢化、地域振興、基地・安全保障、原発、自然災害など</u>）に向き合い、今を生きる「人」たちをどう描くことができるか。そこをまず問い、問題意識を深める一方、撮影や編集の技術を徐々に高めていきます（卒業制作はフィクション、ドキュメンタリーいずれも可）。そのような方針に共鳴する学生は、ぜひ本浜ゼミの扉を叩いてください！ゼミ選択に関する注意事項は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映画史をきちんと押さえます（映画を撮ることは、映画を見ること）。 ・映画を見るのが好き、というだけの学生は、本ゼミをおススメできません（映画を撮ることは、映画や物語を消費することは全く別物）。 ・1人で撮る動画とは異なり、映画は、多くの人と共につくりあげる芸術だということを理解してください。 ・社会問題をえぐるドキュメンタリーを撮りたい学生も大歓迎。 ・ゼミでは、ゼミ全体やグループで制作する映画と、自らの卒業制作作品となる映画を制作します（アニメ制作は対象としません）。 ・プロの映画監督らからサポートを受ける体制を取っています。 <p>*このレジュメの紙幅では書き尽くせない、本浜ゼミについてのあれこれをまとめた資料を用意します（わたしの研究室の前において置く予定）。</p>
ゼミの進め方	映画史・映画理論を学ぶ「座学」、映画の撮影、撮影のための「ロケハン」などのフィールドワーク、演技の稽古などもあり。山形国際ドキュメンタリー映画祭へのボランティア参加（予定）やゼミ合宿も行いたし。
留意事項 （Requirement など）	<p>木曜 4 限、5 限を通した、3、4 年生の合同授業を行うために、履修登録の協力をお願いすることになります。</p> <p>*担当教員はマンガ史などを講じていますが、実はかなりアカデミック、かつジャーナリスト（元新聞記者）。「肺活量」がきわめて高いことをお忘れなく！</p>
ゼミ履修に望ましい科目	「日本研究 A」、「日本研究 B」、「国際理解と文化」など
定員	10 人
選抜を行う必要性が生じた ときの方法	面接（社会問題に関心のある学生にゼミに来てほしく、その関心を尋ねると同時に、大学でしっかり勉強してきたか／しているか等を見ます。）
ゼミ受入決定者への指示	追って連絡
代表的な卒業論文のテーマ	【2023 年度卒業制作作品】ガールズバーでバイトする女子大生を主人公にした『Under the Moonlight』、大学生の就活事情をテーマにした『就活生よ うぬばれよ！』、同じく就活の本音や悩みを描いた、（ドキュメンタリーに近い）『金髪就活生』。

担当者名	八木 良太 (やぎ りょうた)
e-mail アドレス	yagi@bunkyo.ac.jp
研究室	3536
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木曜 4 限
担当科目	国際観光とビジネス、現代資本主義と企業経営、観光ビジネスプロジェクト演習 I・II、経営学など
研究室を訪問できる時間帯	原則として出講日の昼休みと空き時間に対応しますが、事前にメールで連絡をください。
ゼミのテーマ	企業の経営戦略とマーケティング
ゼミの内容・メッセージ	<p>【ゼミの内容】 企業の経営戦略とマーケティングについて学びます。具体的には、経営戦略論・マーケティング論の基礎的な分析枠組み（PEST, ファイブフォース, SWOT, マーケティングミックスなど）を学び、企業が直面する問題や課題を経営学的な観点から分析・解決できる能力を習得します。取り上げる業界（企業）は毎年変わりますが、これまで旅行業界（ホテル旅館）、エンタメ業界（音楽会社）、飲食業界（居酒屋チェーン、コーヒーロースター）などのサービス・エンタメ業界の企業を取り上げてきました。</p> <p>【ゼミの目標】 ①企業が直面する問題や課題を経営学的な観点から分析・解決できる能力を習得する ②就職活動を勝ち抜くための学力、コミュニケーション能力、企画力、構成力、プレゼン力を獲得する</p> <p>【メッセージ】 ・企業経営（ビジネス）に興味のある人、将来起業したい人、家業を継ぐ予定の人、自分で稼ぐ力を身に付けたい人、広報・PRに興味のある人、エンターテインメントビジネス（音楽、ゲーム、アニメ、映画）に関心のある人（エンタメ業界志望者）を歓迎します。</p>
ゼミの進め方	<p>3 年次：通常のゼミではグループワークを中心に、経営戦略論およびマーケティング論の基礎的な理論・概念を学びます。また、通常ゼミと並行してプロジェクト学習を行います。年度によって内容は異なりますが、フィールドワーク、企業訪問、起業家インタビューなどのプロジェクト学習を実施します。これまで、音楽フェスティバルやスポーツイベントのフィールドワーク、音楽会社の企業訪問、最新物流センターの施設見学、各種業界（コーヒー業界、スポーツ業界、音楽業界）で活躍する起業家に対するインタビュー調査を行いました。プロジェクト学習に関しては、ゼミ生の興味関心を踏まえてプロジェクトの内容を決定します。</p> <p>4 年次：各自設定した卒業研究テーマに基づき、調査、論文執筆およびプレゼン準備を行います。</p>
留意事項 (Requirement など)	ゼミナールは、学生が主体的な学び手となり、教員とともに作り上げることに特徴があるので、ゼミ生には教員や他のゼミメンバーと積極的に関わり、主体的に学び、動くことが求められます。フィールドワーク、企業訪問、ゼミ合宿、シンポジウム参加など、ゼミ行事には必ず参加してください。合宿等の費用は自己負担となります。
ゼミ履修に望ましい科目	国際観光とビジネス、観光ビジネスプロジェクト演習 I・II、経営学
定員	10 名

選抜を行う必要性が生じたときの方法	基本的には書類審査により決定します。場合によっては面接を行います。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ決定後、顔合わせ会を行う予定です。
代表的な卒業論文のテーマ	企業経営（ビジネス）に関わるものであればどのようなテーマでも可です。対象となる業種・業界も特に限定しません。
所属ゼミ生（先輩）からの一言	

担当者名	山田 修嗣 (やまだ しゅうじ)
e-mail アドレス	yamashu@bunkyo.ac.jp
研究室	3413
出講日	火・水・金
ゼミの開講時間	金曜 4 限・5 限
担当科目	【春学期】 市民の環境貢献、市民社会と教育、社会で役立つ統計知識 【秋学期】 景観と風景のまちづくり、環境社会学、国際化・情報化時代の社会学、国際理解と社会・経済、観光調査演習
研究室を訪問できる時間帯	研究室訪問は火曜（昼休み）と金曜（昼休み）、金曜のゼミはいつでも見学可能です。
ゼミのテーマ	ステキな「まちづくり」の研究 ～これからの「望ましい社会」にむけた市民と地域の検討～
ゼミの内容・メッセージ	私たちはどのようにステキなまちをつくることができるか。この問いを土台に、地域社会の望ましさの実現を、市民の役割とともに考えます。たとえば、1) 市民の地域活動と地域形成（参加と決定を含む）、自治体の地域づくり施策、環境・市民教育、企業の社会貢献、地域活性化等を、2) 国内外の関連課題や、身近な生活・文化の比較考察と関連させ、3) さまざまなまち（地域）の姿として検討します。社会学をもとに、議論しながら考えるスタイルですが、現地調査や市民活動への参加等も加え、体験的に問題解決策をみつけます。そして、私たちのこれからの「社会」について検討を重ねていきます。
ゼミの進め方	月に 2 回程度、文献購読を行います。発表者はレジュメをつくって報告し、その後、全員で討論します。発言のない人は出席と認めないルールです。また、全員がプロジェクトチーム（研究班）に入ってもらいます。3・4 年生合同で編成し、ここで卒業研究にむけた研究を進めます。各月の 2 回程度をこの時間とし、年度内に数回、報告会を開きます。合宿の他、社会調査やまちづくり実習（市民活動参加）、他ゼミ（他大学）との交流、海外研修（希望者のみ）を行い、現地体験の機会も作ります。
留意事項 （Requirement など）	「みんなでつくるゼミ」を目指し、4 月に全員で年間方針を決めます。決定後は、この方針にしたがってもらいます。なお、夏合宿、他大学との交流、調査や実習は、全員参加を原則とします。
ゼミ履修に望ましい科目	それぞれの「社会への関心」を持ちより、話し合いでゼミの方針を定めたいので、とくに定めません。
定員	12 名（学外での研究活動を実施する予定があるためです。）
選抜を行う必要性が生じたときの方法	もし定員をこえた場合は、選抜方法を該当者にメール（大学のアドレス宛）で連絡します。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ開始前に顔合わせを行います。日時と方法は個別にメールで連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	研究室にて、卒業論文を閲覧可能です。また、卒業研究発表会の資料も Google Drive で公開されていますので、参考にして下さい。
所属ゼミ生（先輩）からの一言	アットホームな雰囲気でのゼミで、現 3 年生はゼミ長をはじめステキなメンバーがそろっています。学生主体のため、自分で考える力を身につけることができます。また、他大学との交流や自治体イベント等に参加する活動もおもしろいです。このような山田ゼミに入っただけだったらうれしいです。

担当者名	渡邊 暁子 (わたなべ あきこ)
e-mail アドレス	watanabe@bunkyo.ac.jp
研究室	3517
出講日	月・水・木
ゼミの開講時間	木曜 4・5 限
担当科目	移民と難民、民族の歴史と世界、地域研究（東南アジア）、文化人類学、持続可能な世界、ボランティア入門、サービスラーニング、国際理解論、フィールド調査法演習（大学院）、開発人類学（大学院）
研究室を訪問できる時間帯	ゼミ生による相談：月・水・木（昼休み）@3517 研究室 ゼミ訪問・ゼミ運営の見学：木曜（4～5 限）：Google ドライブに保管している任意資料でゼミ見学可能日・教室などを確認してください 教員との面談：Zoom（日時対応しますのでメールでご連絡ください）
ゼミのテーマ	「人びとの目線から現代社会の課題を考える」 キーワード：文化人類学、フィールドワーク、宗教、貧困、格差、社会的排除、移民・難民、マイノリティ、国際開発支援 国際協力に限らず、政治や経済、自然現象など様々な出来事は、社会のあり方や個人の生活にどのような影響を及ぼすのでしょうか。開発協力や地域づくり、市民活動を含め、他者とのかかわる際に、その地域や組織、人々について学ぶことから始まります。本ゼミでは、学びの手法として、文化人類学の調査手法であるフィールドワークと聞き取りをベースにしながら、個人、地域、歴史、関係性の視点から課題に切り込んでいきます。
ゼミの内容・メッセージ	本ゼミでは、一つの答えや解決策を見つけることだけを目指すのではなく、人びとに寄り添い、それを取り巻く社会の問題群に焦点を当てたり、多様なアクター間の相互作用で作り出されるプロセスを分析することにも重きを置きます。テーマは海外の事象に限りません。国内活動と国際的活動をつなぐ知見と実践知（フィールドワークなどの学外でのゼミ活動）を深めていく学びの空間を、学生と教員が協力しながらつくっていきたくと考えます。 ※2 年次後半に顔合わせとリアルまたはオンライン合宿をして、ゼミの目標や活動の内容について話し合っ決めていきます。
ゼミの進め方	※基本的には、自分たちで計画を考えます。以下は近年の例です。 3 年次：本ゼミとサブゼミがあります。本ゼミでは、春学期は、2023 年度は履修者が選んだ文献を講読し、ゼミ履修者による発表やディスカッションをしました。2024 年度はフィリピンとのオンライン交流を 4 回行い、英語でのディベートも試みました。秋学期は、履修者の関心のあるテーマに沿った研究（ゼミ論）の発表および議論を中心とします。1 年を通じて、履修者が自ら「考える・調べる・伝える」を一通りできるように進めていきます。サブゼミは有志による研究・実践活動で、2023 年度はウクライナ難民と写真展企画、フィリピン研修等です。2024 年はフィリピン研修とグローバルフェスタ出展です。 4 年次：卒業論文執筆にむけた具体的な研究・調査計画を立てます。各自のテーマと内容について、報告をし、討論しながら精緻化していきます。一方で、時事問題の記事等をテーマにし、社会人として求められるコミュニケーション力や討論の技術などを磨いていきます。
留意事項 (Requirement など)	3 年次の夏休みに、任意参加で海外フィールドワーク研修をフィリピンにて実施しています。2025 年度の実施の有無や内容について 5 月上旬から決めていきますので、一緒に検討してください。フィリピン研修の中身について、2024 年度は「福祉・教育・移動からフィリピンの社会課題を探る」をテーマに、児童養護施設、スラム地域、ムスリム居住区、都市と農村の公立学校等を訪問し、人々が抱える課題と体系的な支援のあり方（保護、支援、自立）について聞き取りをします（8 月末実施）。
ゼミ履修に望ましい科目	「文化人類学」「移民と難民」「民族の歴史と世界」「開発教育論」、その他国際学部の関連科目を履修していることが望ましいです。
定員	10 名
選抜を行う必要性が生じたときの方法	定員数の上限を超えた場合、面接や希望調査票の内容を重視しますが、目的意識を持っているかどうか、周りと協調して活動を進められるかどうかポイントになります。学科の異なる学生がともに学ぶことで得られる相乗効果を期待したいので、特定学科を優先することはありません。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ受入決定後、授業の合間を縫って顔合わせをし、春休み中（2 月ごろ）に、受け入れが決定した 2 年生と 3 年生を合わせた合宿も企画・実施します。そこでは、2 年生は各自の関心のすり合わせと次年度の大まかな予定を

	決めていきます。ぜひ参加してください。
代表的な卒業論文のテーマ	「タイにおけるミャンマー難民と教育」「在日ムスリムとの付き合い方」「LGBTという言葉の広がりとその背景」「スイスと英国から分析する日本のフェアトレード市場の改善点」「新型コロナウイルスと障害からみる子どもたちが抱える教育格差の『壁』」「移民2世の国籍選択とエスニックアイデンティティ」「こども食堂の課題」「西欧と日本におけるアニマルウェルフェアの導入」など。
所属ゼミ生(先輩)からの一言	<p>こんにちは！ 渡邊暁子ゼミの3年ゼミ長です！！</p> <p>私たち3年生のゼミナールでは、各々が興味のあることがバラバラなのですが、それぞれが学びたいことを学べるように自分たちで授業内容を決め、授業進行も行うなどして主体性を持って積極的に活動しています！</p> <p>ゼミの環境はフレンドリーに溢れ、時々真面目に取り組んでいます笑</p> <p>私たちは東南アジアを中心としたアジアを主に対象とした授業展開をしており、今夏はみんなでフィリピン研修に行きました☺楽しかったな～</p> <p>あ、あと、みんな先生のことが大好きです！</p> <p>先生の授業や先生のことが好きなあなた待ってますー</p>

担当者名	渡邊 三津子 (わたなべ みつこ)
e-mail アドレス	m.watanabe@bunkyo.ac.jp
研究室	3512
出講日	月曜日、水曜日、木曜日
ゼミの開講時間	木曜 4 限、5 限
担当科目	地理学 (あだち)、環境地理学、世界と日本の地理、持続可能な開発論、開発と国際協力、地域研究 F (南・西アジア)
研究室を訪問できる時間帯	【ゼミ見学】木曜 (4 限、5 限) 【教員との面談】Google カレンダーで研究室訪問可能な時間帯を確認の上、希望時間を予約してください。 ※ ゼミ見学可能な日時や、Google カレンダーのリンク先 URL は Google ドライブの資料を確認してください。
ゼミのテーマ	地理学の視点から地域 (空間) を読み解く
ゼミの内容・メッセージ	本ゼミでは「フィールドでの学びと気づきを」をモットーにゼミ活動を行います。 メインの活動内容としては、非文字資料 (主に古写真や絵図、古地図等) を用いて、対象地域の過去の景観を復元するとともに、そこから呼び起こされる「歴史書に残っていない地域 (空間) の記憶」を未来に伝える活動に取り組みます。 本ゼミ、サブゼミの活動を通して、地域調査の計画立案から論文執筆までの流れを実践的に習得するとともに、それを活かして各自がフィールド (調査対象地域) をもって研究を行います。ゼミ生の研究テーマは多岐にわたります。
ゼミの進め方	【3 年春学期】 「未来につなぐ町並み古写真プロジェクト (以下、古写真プロジェクト)」を通して、地理的なものの見方・考え方、地域調査のスキルを実践的に習得します。また、サブゼミの活動として、本ゼミで実施する「古写真プロジェクト」の写真展やワークショップなどの成果発信や、地域との連携に取り組みます。 【夏休み】 3 年次の夏休みには国内外でフィールドワーク実習 (巡検) を予定しています。 【3 年秋学期】 春学期に習得したスキルの実践として、各自でテーマを決め、プレ卒業研究に取り組みます。 【4 年次】 各自で調査研究を進め、フィールドワークにもとづいて卒業論文を執筆します。
留意事項 (Requirement など)	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内外でのフィールドワークを予定しており、フィールドが遠方 (海外) の場合には相応の経費が必要です。※ 感染症等の状況や社会情勢により中止の可能性もあります。 ● 巡検の事前準備、実施、事後レポート作成・報告会準備などで、かなりの時間が必要となります。 ● ゼミの活動には原則参加してください。
ゼミ履修に望ましい科目	地理学 (あだち)、環境地理学、世界と日本の地理 地理学の基礎を習得していることを前提として進めます。ゼミ履修と並行しても構いませんが、上記科目の履修を推奨します。
定員	10 名 学外での巡検実施を予定しているため 10 名までの募集とします。
選抜を行う必要性が生じたときの方法	希望調査票の内容をもとに選考を行います。選考に際しては、ゼミで学びたい内容や熱意、ゼミへの貢献可能性を重視します。
ゼミ受入決定者への指示	ゼミ受入れ決定後、全員で顔合わせを行います。日時は追って連絡します。
代表的な卒業論文のテーマ	現 4 年生が取り組んでいる卒業研究のテーマ (仮) です。フィールドワークに基づく地理学的研究であればテーマ設定は自由です。フ

	<p>イールドは国内外を問いません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 足立区の屋上緑化がもたらす環境保護 ● 景観の変化からみるまちづくりの現状と課題ー地域資源を活かしたまちづくりー ● 道の駅の立地が利用目的と客層に与える影響 ● レジャー施設におけるアニメとのタイアップによる集客効果ー東武動物公園を事例にー ● キャンパス移転に伴う出身地、就職先分布と U ターン就職者の割合の変化ー文教大学国際学部・経営学部を事例にー ● 足立区・草加市におけるシェアサイクリングサービス利用者の行動分析 ● 今後の超高層マンション利用の可能性についてー武蔵小杉駅周辺と晴海フラッグにおける大規模開発事業を例にー ● 商店街の変容から見る地域活性化とまちづくりー寄居町を事例としてー ● 鉄道高架下による観光まちづくり ● 古写真を利用した練馬区の景観変化に関する研究 ● 正規化植生指標を用いた草加市の土地被覆変化
<p>所属ゼミ生(先輩)からの一言</p>	